令和元年度

事　業　年　報

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

日本赤十字社 鹿児島県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字基本原則

（1965年ウィーンで開催された第20回国際会議議決）

人　道　赤十字は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長する。

公　平　赤十字は国籍、人種、宗教、社会的地位、又は政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字はただ苦痛の度合いに従って個人を救うことに努め、その場合、最も急を要する困苦をまっさきに取扱う。

中　立　すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字は戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的又は思想的性格の紛争には参加しない。

独　立　赤十字は独立である。各国赤十字は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律には従うが、常に赤十字の諸原則に従って行動できるよう、その自主性を保たなければならない。

奉　仕　赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織である。

単　一　いかなる国にもただ一つの赤十字社しかあり得ない。赤十字社はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世界性　赤十字は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

ご あ い さ つ

皆様には、日頃から赤十字事業にご理解をいただき、支部事業の推進にお力添えを賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

日本赤十字社は、１９２の国や地域に広がる国際赤十字の一員として、世界中で絶え間なく起こる災害や紛争の被災者への救援活動、疾病や感染症などの健康問題に苦しむ人々のための保健衛生事業等を、各国の赤十字社と連携して展開しています。

さて、日本国内におきましては、平成２３年の東日本大震災、平成２８年の熊本地震の傷が癒えない中、昨年も令和元年８月豪雨や台風１５号、１９号の襲来などにより多くの方々が被災され、尊い人命が失われました。

日本赤十字社では、全国の支部等の連携のもと、救援物資の輸送・配分、医療救護班やこころのケア班の派遣とともに、義援金募集も行いました。

また、現在、新型コロナウイルス感染症が国内においても拡大している中、日本赤十字社では、全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療及び感染拡大防止のための活動に取り組んでいるほか、ダイヤモンド・プリンセス号への救護班の派遣や、感染拡大防止のための情報発信などを行っております。

一方、鹿児島県内においては、昨年６月末からの大雨により、県内各地で土砂災害や住家被害など大きな被害が発生したため、救援物資（毛布・タオルケット・ブルーシート等）の輸送・配分を行いました。

このように、いつどこで大きな災害が発生するかわからない昨今、県支部としましては、迅速かつ機動的に対応できるよう災害救護体制の強化に努め、併せて県民の皆様に対する「防災・減災教育」の活動を更に充実させていきたいと考えております。

次に、病院事業については、公的医療機関として地域医療の充実に貢献するため、災害時の医療救護、離島・へき地医療への取組はもとより、各診療科領域において特色ある専門的かつ高度な医療の提供に取り組み、その使命と役割を果たしてきました。

血液事業については、採血・供給業務を受け持つ地域血液センターとして、少子高齢社会に対応した献血者の安定的な確保と、安全な輸血用血液の安定供給に努めました。

社会福祉事業については、全室個室のユニット型特別養護老人ホームとして、質の高いサービスを提供するとともに、入居者の安全対策・環境整備や地域の皆様方との交流、ボランティアの受入れなど地域との連携に努めました。

これらの事業をはじめとする、令和元年度の各種支部事業については、概ね当初の計画を達成することができました。これもひとえに、皆様方の赤十字事業へのご理解とご支援の賜物と心からお礼申し上げます。

なお、赤十字の活動を支える財政的基盤である社資の募集は、地区・分区等におきまして町内会・自治会、赤十字奉仕団、赤十字有功会等のご協力を得ながら行っておりますが、年々厳しい環境の中で、さらに赤十字の活動をご理解いただけるよう積極的な啓発と広報に努めるとともに、県民の皆様の期待に応えられるような活動の充実を図ってまいりたいと考えております。

ここに令和元年度の事業実施状況を報告いたしますので、ご高覧のうえ、今後とも県民の皆様のなお一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

令和２年６月

日本赤十字社鹿児島県支部
支部長　三 反 園　訓

目　　次

1　災害救護・・・

（8） その他の青少年赤十字活動
（9） 校種別加盟校名簿

6　国際活動・・・

（６） 献血者登録制度の推進
（７） 骨髄バンク事業
（８） 献血功労者表彰

１２　社会福祉事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
（１） 指定介護老人福祉施設事業
（２） 指定居宅サービス（短期入所生活介護）事業
（３） 入居者へ質の高いサービスの提供
（４） 入居者の安全対策・環境整備
（５） ボランティアの受入れと地域との連携
（６） 実習生の受入れ
（７） 地域貢献活動について
（８） 広報活動について
（９） その他
（参考）令和元年度における入居者の状況

１３　評議員会及び監査等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
（１） 支部評議員会
（２） 業務監査
（３） 地区・分区関係各種会議等

１４　決算状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７６
（１） 令和元年度一般会計歳入歳出決算書
（２） 令和元年度医療施設特別会計歳入歳出決算書
（３） 令和元年度社会福祉施設特別会計歳入歳出決算書

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９

○ 本社及び支部組織図等
○ 日本赤十字社鹿児島県支部主要役員名簿
○ 日本赤十字社鹿児島県支部評議員名簿
○ 日本赤十字社現勢
○ 支部の現勢
○ 支部の沿革

１　災　害　救　護

災害救護は、日本赤十字社の行う最も重要な事業の一つであり、当県支部では救護班を常備するとともに、災害救護活動の速やかな実施や各種救護訓練、災害救護資機材等の整備に努めた。

（１）常備救護班の設置

日本赤十字社救護規則に基づいて、８常備救護班を設置し、災害救護活動に備えた。

◎常備救護班の編成状況

	医　師	看護師長	看護師	主　事	計
１個班の編成	1	1	2	2	６人
常備要員数	8	8	１６	１６	４８人

（２）災害救護活動

ア　５月１８日からの大雨による被害

５月１８日から屋久島町を中心に大雨となり、人的・住家被害が発生した。

鹿児島県支部では災害対策本部を設置して、日赤屋久島町分区からの要請により毛布７０枚、タオルケット４０枚輸送・配分した。

イ　６月末からの大雨による被害（鹿児島県内全域豪雨）

６月下旬から梅雨前線が停滞し九州南部を中心に大雨となり、鹿児島県でも土砂災害や住家被害が発生した。

鹿児島県支部では、災害対策本部を設置して県内各地区・分区に情報収集等を行い、被害を受けた地区・分区へ救援物資を輸送・配分（補充を含む）した。

地区・分区名	毛　布 (枚)	緊急セット (ｾｯﾄ)	タオルケット (枚)	ブルーシート (枚)
いちき串木野市地区	２０	１２	２０	１０
姶良市地区	１００	0	１００	３０
曽於市地区 大隅分区	２０	１２	３０	１０
日置市地区 日吉分区	２０	6	２０	１０
計	１６０	３０	１７０	６０

ウ　８月豪雨災害（九州北部豪雨）

８月２７日から九州北部地方を中心に局地的に猛烈な雨が降り、特に佐賀県を中心に人的・住家被害が発生した。

鹿児島県支部では災害対策本部を設置し情報収集を行い、日赤佐賀県支部からの要請により武雄市へ救護班１個班を派遣した。

・派遣期間　　８月３１日（土）～９月２日（月）
・派遣先　　日本赤十字社佐賀県支部
・派遣者　　日赤鹿児島県支部　　１人
　　鹿児島赤十字病院　　５人
　　計　　６人



急変した被災者への対応



避難所アセスメントの様子

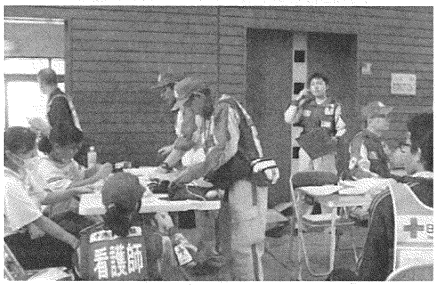
（３）災害救護訓練等の実施

ア　日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練

「沖縄本島南部スラブ内を震源とするＭ７．８の地震が発生。沖縄本島の南部から中部を中心に多数の倒壊家屋が発生し、空港、港湾、主要道路等では液状化が起こり、人的・物的に甚大な被害が発生している模様。」との想定で、１１月２２日（金）～２４日（日）に日赤沖縄県支部主催により実施された訓練に参加した。

・参加者　　日赤鹿児島県支部　　４人
　　鹿児島赤十字病院　　４人
　　計　　８人





イ　各機関が実施する防災訓練への参加

(ｱ) 鹿児島県総合防災訓練

５月１９日（日）に姶良市の加治木文化会館、加治木運動場等において県と姶良市主催による実施を予定していたが、県内において大雨による被害が発生したため中止

となった。

(ｲ) 多数傷病者事故対応訓練

「走行中の普通乗用車が運転操作を誤り対向車線にはみ出したため、対向車線を走行中の普通乗用車と正面衝突し、後方を走行中の観光バス１台が事故車両に追突し多数の負傷者が発生した。」との想定で、９月９日（月）に消防総合訓練研修センターにおいて鹿児島市・消防局主催により実施された訓練に参加した。

・参加者	日赤鹿児島県支部	３人
	鹿児島赤十字病院	６人
	計	９人

(ｳ) 鹿児島空港航空機事故対処総合訓練

「航空機が着陸時、強い横風を受け、左翼端が滑走路に接触、バランスを崩し滑走路から逸脱した。右メインギアが破損しエンジンから火災が発生。搭乗者は機体左側よりエスケープスライドで脱出しているが、機内には多数の負傷者が取り残されている模様。」との想定で、１０月１０日（木）に鹿児島空港において鹿児島空港緊急計画連絡協議会主催により実施された訓練に参加した。

・参加者	日赤鹿児島県支部	４人
	鹿児島赤十字病院	７人
	計	１１人

(ｴ) 桜島火山爆発総合防災訓練(図上訓練)

「桜島の大規模爆発に対して、住民避難等の各種の災害応急対策が迅速・的確に行われるよう、関係機関の認識の共有、各機関の役割・能力の確認及び相互の連携強化など災害対応能力の向上を図る。」を目的に、１１月７日（木）に鹿児島県行政庁舎２階講堂において鹿児島県主催により実施された訓練に参加した。

・参加者	日赤鹿児島県支部	２人
	鹿児島赤十字病院	１人
	計	３人

(ｵ) 第５０回桜島火山爆発総合防災訓練

「桜島の北東部及び南西部での火山性地震及び地殻変動が増加傾向を示し、噴火警戒レベル５が発表された。その後震度６強の地震が発生した。」との想定で、１月１１日（土）に桜島支所及び天保山中学校において実施された訓練に参加した。

・参加者	日赤鹿児島県支部	５人
	鹿児島赤十字病院	６人
	鹿児島県赤十字血液センター	２人
	赤十字アマチュア無線奉仕団	７人

	鹿児島中央奉仕団	３０人
	計	５０人

(カ) 鹿児島県原子力防災訓練に係る避難退域時検査実施訓練

「震度６強の地震により川内原発原子炉が自動停止し、外部電源喪失等の被害が出た。」との想定で、２月９日（日）に宮之城運動公園及び郡山中央構造改善センターにおいて実施された訓練に参加した。

・参加者	日赤鹿児島県支部	２人
	鹿児島赤十字病院	６人
	鹿児島市郡山奉仕団	３０人
	計	３８人

(キ) 鹿児島県・霧島市国民保護共同図上訓練

「霧島市国分運動公園にて爆弾テロが発生し、観客やスタッフを中心に多数の死傷者が発生した。」との想定で、２月２１日（金）に鹿児島県行政庁舎２階講堂において鹿児島県及び霧島市主催により実施された訓練に参加した。

・参加者	日赤鹿児島県支部	２人

ウ　救護員研修

(ア) 鹿児島県支部救護員基礎研修

自然災害のみならず、大規模交通災害やテロ災害など災害救護を取り巻く環境が、多岐にわたってきている。このため、災害時の役割を認識し、新たな救護体制の再構築をするとともに、救護員の量的確保並びに質的向上を図ることを目的に、１６時間（２日間）カリキュラムで、鹿児島県支部管内職員を対象とした基礎研修を実施した。

また、既受講者を対象に、近年の災害救護活動や日赤の救護体制について理解を深めるためのフォローアップ研修を実施した。

＜救護員基礎研修＞

・開催日時　　１日目：９月２１日（土）８時３０分～１７時３０分
　　受講者数：１５人
　　２日目：１０月１２日（土）８時３０分～１７時３０分
　　受講者数：１５人
・開催場所　　県赤十字会館

＜救護員フォローアップ研修＞救護員基礎研修２日目と同日開催

・開催日時　　１０月１２日（土）８時３０分～１７時３０分
　　受講者数：８人
・開催場所　　県赤十字会館

(ｲ) こころのケア研修会

災害発生時に、従来の救護活動に加えて被災者に対するこころのケアの実施方法と、救護員自身のこころのケアに関する対処方法を習得することを目的として実施した。

・開催日時　　６月１４日（金）９時～１７時
　　受講者：１５人
・開催場所　　県赤十字会館

(ｳ) 全国赤十字救護班研修会

災害の超急性期医療を含めた日赤救護班の強化と技術の向上を目的に開催されたもので、大規模災害発生時の初動対応のなお一層の強化が必要となるため、職員を派遣した。

・開催日程　　７月１４日（日）～１６日（火）
・開催場所　　日本赤十字社本社
・参加者　　日赤鹿児島県支部　　１人
　　鹿児島赤十字病院　　３人
　　計　　４人

(ｴ) 日赤災害医療コーディネート研修会

日本赤十字社災害医療コーディネーターとして、災害対策本部の在り方、本部運営組織、資機材・レイアウト、及び本部における業務について理解を深めることを目的に職員を派遣した。

・開催日程　　第１回　９月１４日（土）～１５日（日）
　　第２回　１２月７日（土）～８日（日）
・開催場所　　日本赤十字社本社
・参加者　　日赤鹿児島県支部　　１人
　　鹿児島赤十字病院　　３人
　　計　　４人

（４）災害救援物資の備蓄・配分

災害救援物資は、災害発生時に速やかに災害救援物資を被災者に配分できるよう支部倉庫に加え県内３６の地区・分区に常備地区を設け災害救援物資を備蓄し、迅速な配分に備えている。

災害被災者に対し、災害救護活動の一環として、原則として支給基準に基づき救援物資を配分している。

ア 災害救援物資の備蓄状況　　（令和２年３月３１日現在）

品名 ＼ 備蓄先	毛布（枚）	緊急セット（ｾｯﾄ）	タオルケット（枚）	見舞品セット（ｾｯﾄ）※	ブルーシート（枚）
支部倉庫	1,714	343	1,945	10	1,144
３６常備地区	1,950	976	1,227	674	1,016
計	3,664	1,319	3,172	684	2,160

※「見舞品セット」は、製作中止となり補充無し、現有在庫までの備蓄。

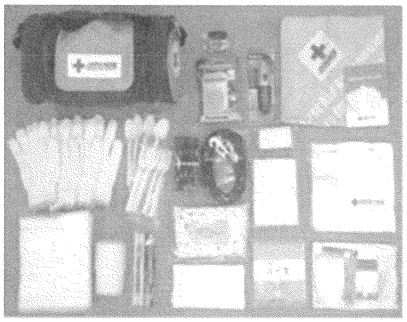
イ 災害救援物資配分基準

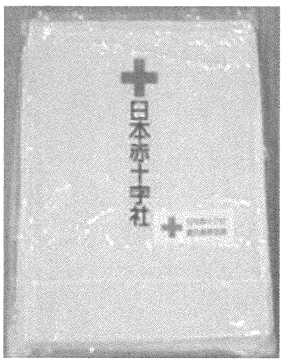
品名 ＼ 災害区分	全焼・半焼・全壊・半壊・流失・床上浸水	
毛布	被災者１人につき	１　枚
緊急セット（タオル･携帯ラジオ・懐中電灯・風呂敷等）	被災世帯１世帯につき	１セット ※1
タオルケット	被災者１人につき	１　枚 ※2
ブルーシート	被災世帯１世帯につき	１　枚

（注）・この基準は非住家には適用しない。
・死亡者は、世帯構成員に加えない。
※１　世帯標準構成員は４人である。
※２　平成３０年度より、１世帯に１枚から１人１枚に変更。

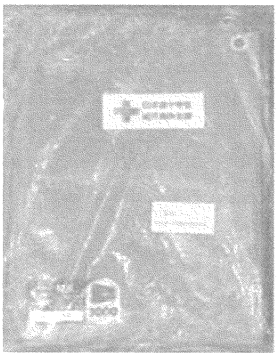


毛布


緊急セット



タオルケット


ブルーシート

ウ 災害救援物資常備地区及び配分区域　　(令和２年３月３１日現在)

常備地区	配分区域	常備地区	配分区域
鹿児島市(市)	鹿児島市	南九州市(社)	南九州市
鹿屋市(社)	鹿屋市	伊佐市(社)	伊佐市
枕崎市(社)	枕崎市	姶良市(社)	【加治木町、姶良町、蒲生町】
阿久根市(社)	阿久根市、長島町	さつま町(社)	さつま町
出水市(社)	出水市	湧水町(社)	湧水町
指宿市(社)	指宿市	大隅(地)	東串良町、錦江町 南大隅町、肝付町、大崎町
西之表市(社)	西之表市	熊毛(支)	中種子町、南種子町
垂水市(社)	垂水市	大島(支)	大和村、宇検村、龍郷町
薩摩川内市(社)	薩摩川内市【川内市、樋脇町、東郷町、祁答院町、入来町】	瀬戸内町(社)	瀬戸内町
薩摩川内市 上甑町(社)	薩摩川内市上甑町	喜界町(社)	喜界町
薩摩川内市 下甑町(社)	薩摩川内市下甑町	徳之島町(社)	徳之島町
日置市(社)	日置市	天城町(社)	天城町
曽於市(社)	曽於市	伊仙町(社)	伊仙町
霧島市(社) 【国分市】	霧島市Ⅰ 【国分市、隼人町、福山町、溝辺町】	和泊町(社)	和泊町
霧島市(社) 【牧園町】	霧島市Ⅱ 【牧園町、横川町、霧島町】	知名町(社)	知名町
いちき串木野市 (社)	いちき串木野市	与論町(社)	与論町
南さつま市(社)	南さつま市	屋久島事務所 (支)	屋久島町
志布志市(社)	【志布志町、松山町、有明町】	支部直送	三島村
奄美市(社)	奄美市		十島村

※【　】内は旧市町村名。
（社）社会福祉協議会・（市）市役所・（役）役場・（地）地域振興局・（支）支庁

エ　支部及び常備地区における災害救援物資の備蓄状況

令和2年3月31日現在

	本社毛布					本社緊急セット					支部見舞品セット					(支部・本社) タオルケット					支部ブルーシート				
	繰越	補充戻入	破損消却	配分分置	残数	繰越	補充戻入	破損消却	配分分置	残数	繰越	補充戻入	破損消却	配分分置	残数	繰越	補充戻入	破損消却	配分分置	残数	繰越	補充戻入	破損消却	配分分置	残数
支　部	2,086			372	1,714	445			102	343	5	5			10	2,294	1		350	1,945	764	530		150	1,144

※配分分置の数字は、支部から直接、被災者へ配分したものと、常備地区への分置の合計。

常備地区名	繰越	受入	返却	配分	残数	繰越	受入	返却	配分	残数	繰越	受入	返却	配分	残数	繰越	受入	返却	配分	残数	繰越	受入	返却	配分	残数
鹿児島市	101			25	76	65			15	50	49			15	34	100			16	84	58			15	43
鹿屋市	66			26	40	39			26	13	6			3	3	39			25	14	33			14	19
枕崎市	10				10	17				17	10				10	13				13	11				11
阿久根市	11	10		8	13	7	6		4	9	10			4	6	19	10		6	23	15	5		4	16
出水市	76			3	73	38			3	35	44			3	41	30			3	27	29			3	26
指宿市	25	10		9	26	11	6		2	15	6			1	5	16	10		9	17	13	5		2	16
西之表市	9			5	4	7			2	5	8			2	6	9			5	4	9			2	7
垂水市	43				43	32				32	22				22	20				20	23				23
薩摩川内市	42	10		13	39	24			6	18	20			5	15	45			10	35	22	5		6	21
薩摩川内市（上甑）	39				39	37				37	38				38	37				37	39				39
薩摩川内市（下甑）	25				25	16				16	22				22	20				20	30				30
日置市	23	40		40	23	36	18		27	27	19			9	10	26	40		40	26	32	15		21	26
曽於市	47	20		5	62	44	12		4	52	35			3	32	36	30		5	61	35	10		3	42
霧島市（国分）	28	10		1	37	18	36		23	31	23			1	22	56	50		40	66	21	50		24	47
霧島市（牧園）	16			4	12	11			2	9	8			2	6	21			4	17	11			2	9
いちき串木野市	16	20		19	17	19	12		11	20	19				19	20	20		21	19	23	10		11	22
南さつま市	89			3	86	56			3	53	56			3	53	56			10	46	58			2	56
志布志市	18	10		7	21	21			4	17	18			4	14	31	10		7	34	26			4	22
奄美市	62				62	72				72	50				50	139				139	43				43
南九州市	12			2	10	7			1	6	10			1	9	16			2	14	11			1	10
伊佐市	46			5	41	51			2	49	46			2	44	46			5	41	45			2	43
さつま町	14			2	12	9			2	7	9			2	7	12			2	10	11			2	9
湧水町	3				3	6				6	1				1	2				2	4				4
姶良市	33	100		71	62	18			6	12	2				2	30	100		71	59	16	30		21	25
大隅地区	105			6	99	83			4	79	83			5	78	84			10	74	81			6	75
熊毛地区	96	10		2	104	34			1	33	33			1	32	25	10		2	33	24	5		1	28
大島地区	572				572	60				60	37				37	83				83	107				107
瀬戸内町	53			1	52	23			1	22	0				0	26			1	25	23			1	22
喜界町	19				19	11				11	0				0	16				16	12				12
徳之島町	28	30			58	18	12			30	0				0	8	30			38	18	15			33
天城町	46				46	36				36	4				4	34				34	32				32
伊仙町	20			1	19	14			1	13	0				0	15			1	14	26			1	25
和泊町	20			1	19	21			1	20	9			1	8	22			1	21	19			1	18
知名町	32				32	18				18	15				15	9				9	17				17
与論町	27				27	26				26	10				10	15				15	20				20
屋久島事務所	52	70		55	67	22			2	20	21			2	19	14	40		17	37	20			2	18
常備地区計	1,924	340	0	314	1,950	1,027	102	0	153	976	743	0	0	69	674	1,190	350	0	313	1,227	1,017	150	0	151	1,016

※返却の数字は、破損等による支部への返却数であり、支部の補充戻入に反映される。
※常備地区間の補充も受入・配分数に計上している。

（５）救護資機材の整備

災害発生時に円滑な救護活動が行えるよう、新たに次のとおり救護資機材を整備・更新した。

ア　県支部における救護資機材の整備

・救護班要員編み上げ靴　　１２足

イ　地区・分区における救護資機材の整備

①救援物資の輸送及び日常の情報収集活動、災害救援活動等に不可欠な救援車を整備するため、２分区にそれぞれ６０万円の補助金を交付した。

（交付先）

地区・分区名	交付額（円）
枕崎市地区	６００，０００
喜界町分区	６００，０００
計	１，２００，０００

②災害救援物資の管理及び速やかに被災者に配分できるよう物資保管倉庫を拠点となる市地区に設置した。

（設置先）日本赤十字社　大島地区

ウ 支部における救護資機材の整備状況

救護資機材の名称	整備状況	救護資機材の名称	整備状況
超短波無線電話 全県移動システム	1式	浄水機	1
無線装備（150MHz帯）	基地局(固定局)6 移動局56	発電機	7
無線装備（400MHz帯）	基地局1 移動局23	投光機	8
無線装置（二重免許）	移動局2	炊き出し用釜セット	6
携帯電話	6	医療セット	3
衛星電話	可搬型2 車載型1	携帯型医療セット	1
通信機器（パソコン）	1	マジックギブス	3
通信機器（ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ）	1	アンビューバッグ	3
トランシーバー	10	血圧計	8
カーナビゲーション	9	点滴台	12
救急車	支部1 病院1	寝袋	30
災害救援車	3	寝袋用マット	10
災害連絡車	3	折畳式リヤカー	4
通信指令車	1	折畳式自転車	2
患者用エアーテント	1	医療セット置き台	2
診療用エアーテント	1	輸液ポンプ	10
フレーム式拡張テント	3	簡易型心電図モニター	1
災害用テント	3	携帯型除細動器	1
担架	37	ポータブル人工呼吸器	1
担架架台	10	GPS機能付車載無線機	1

エ 地区・分区における救護資機材整備状況

令和2年3月31日現在

市町村	旧市町村	自動車		天幕		プレハブ(物資)倉庫〔大〕		炊出し用釜セット		災害物資保管庫〔小〕		サーチライト			
												自動車用		公民館用	
		数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度
鹿児島市	鹿児島市	1	H20	5	51・54 56・60・H5							1	H1	44	H2
	谷山地域			2	52・63									16	H2
	吉田町			2	56・H4									5	H2
	桜島町			3	51・62・H13			1	H12	1	H2	1	H1	3	H2
	喜入町									1	H2			7	H2
	松元町														
	郡山町			1	H1									6	H2
鹿屋市	鹿屋市	1	H22	2	61・H5									30	H2
	輝北町			2	56・H4			1	H13	1	62	1	H1	6	H4
	串良町			2	51・62			1	H12	1	62	1	H3	7	H4
	吾平町			2	H4・H13					1	63	1	H1	5	H4
枕崎市		1	R1	1	H13	1	58	1	H13						
阿久根市		1	H19					1	H13						
出水市	出水市	1	H28	2	63・H13			1	H12			1	H1	2	H2
	野田町			2	56・H4			1	H16	1	63				
	高尾野町	1	H13	2	55・H2			1	H13	1	H11	1	H3	3	H3
指宿市	指宿市	1	H16			1	H26							1	H2
	山川町	1	H30					1	H15	1	63			1	H2
	開聞町	1	H15							1	63			1	H2
西之表市		1	H15					1	H13	1	H2	1	H1		
垂水市				1	H13			1	H14	1	H2			6	H2
薩摩川内市	川内市			3	51・61・H13	1	H5	1	H15			1	H1	20	H2
	樋脇町			2	56・H4									6	H3
	入来町	1	H19	2	56・H2			1	H2	1	H12	1	H1	9	H3
	東郷町	1	H1	2	56・H5			1	H15	1	63	1	H1	6	H3
	祁答院町	1	H23	2	59・H5			1	H15	1	62			6	H3
	里村	1	H11	2	55・H3					1	63			6	H3
	上甑村	2	H14・H22	1	H3			1	H16					8	H3
	下甑村	1	H29	2	52・H1			1	H14	1	H11			2	H3
	鹿島村	H29.4下甑と合併								1	63				
日置市	東市来町	1	H28	2	54・H1			1	H15	1	63			8	H3
	伊集院町	1	H17	3	53・H1			1	H13	1	H10			5	H3
	日吉町	1	H26					1	H16					7	H3
	吹上町	1	H25					1	H12	1	H2				
曽於市	大隅町	1	H24	2	H1・H9			1	H13	1	63	1	H1	8	H4
	財部町	1	H14	2	55・H2					1	62			5	H4
	末吉町	1	H28	1	H1			1	H14	1	63	1	H1	14	H4
霧島市	国分市	1	H23					1	H16						
	溝辺町			2	54・H2					1	H2				
	横川町			1	H4			1	H16						
	牧園町			2	H2・H13	1	H7	1	H12	1	H1				
	霧島町							1	H13	1	63				
	隼人町			1	54			1	H16	1	H2				
	福山町	1	H16	1	H4					1	63				
いちき串木野市	串木野市			2	61・H5			1	H14	1	H2				
	市来町	1	H10	2	56・H4			1	H15	1	H11				
南さつま市	加世田市			1	H5	1	H24	1	H12	1	H2			1	H2
	笠沙町			1	H4			1	H14	1	62	1	H1	5	H2
	大浦町			1	H1			1	H14	1	62	1	H3	1	H2
	坊津町			2	56・H5			1	H15	1	62				
	金峰町							1	H13						

エ 地区・分区における救護資機材整備状況

令和2年3月31日現在

市町村	旧市町村	自動車		天幕		プレハブ(物資)倉庫〔大〕		炊出し用釜セット		災害物資保管庫〔小〕		サーチライト			
												自動車用		公民館用	
		数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度	数量	整備年度
志布志市	松山町			1	H5			1	H13	1	H2			4	H4
	志布志町	1	H18					1	H15	1	62			3	H4
	有明町	1	H25					1	H12	1	62			1	H4
奄美市	名瀬市			1	63	1	H25	1	H15						
	住用村									1	H1				
	笠利町			2	54･H2			1	H16	1	H1				
南九州市	頴娃町	1	H19	2	53･H1			1	H21	1	62			7	H2
	知覧町	1	H12	2	54･H2			1	H12	1	H25	1	H3	8	H2
	川辺町	1	H12	2	53･H1	1	H12			1	62			8	H2
伊佐市	大口市	1	H18	3	51･62･H13	1	60	1	H15	1	H2	1	H1	19	H2
	菱刈町	1	H30	2	55･H2	1	H29			1	H2	1	H3	6	H4
姶良市	加治木町			2	54･H1			1	H16	1	H2				
	姶良町	1	H16	2	53･H1			1	H18	1	63				
	蒲生町	1	H18	1	H2			1	H13	1	63				
三島村		1	H3	2	56･H5							1	H3	5	H2
十島村				2	56･H5									8	H2
さつま町	宮之城町	1	H15	1	H5	1	H7								
	鶴田町	1	H12	2	53･H1			1	H14	1	63				
	薩摩町	1	H11	1	H4	1	H10	1	H13						
長島町	東町	1	H1	2	54･61					1	61	1	H3	11	H3
	長島町	1	H24	2	H1･H13			1	H12	1	61	1	H1	5	H3
湧水町	栗野町	2	H13・H22	2	55･H3	1	H10	1	H14	1	63				
	吉松町			1	H4			1	H14	1	63	1	H1		
大崎町		1	H16	2	55･H2			1	H14	1	62	1	H1	1	H4
東串良町				2	55･H2					1	62	1	H1	3	H4
錦江町	大根占町	1	H14	2	63･H13			1	H16	1	62			9	H4
	田代町			2	56･H5			1	H15	1	61	1	H1	4	H4
南大隅町	根占町	1	H12	2	55･H3			1	H14	1	61			17	H4
	佐多町			2	56･H5			1	H13	1	61				
肝付町	内之浦町	2	H20・H27	2	54･H2			1	H15	1	61				
	高山町			2	61･H5			1	H16	1	63				
中種子町										1	62				
南種子町				1	H1			1	H16	1	61	1	H1		
屋久島町	上屋久町			1	H5			2	H12	1	62				
	屋久町	1	H28					1	H16	1	63	1	H1		
大和村				2	61･H5			1	H12					7	H4
宇検村		1	H26	2	55･H3			1	H16	1	62			6	H4
瀬戸内町		1	H21	2	53･H1			1	H14	1	62			21	H4
龍郷町		2	H11・H23	1	H3	1	H25	1	H15					8	H4
喜界町		1	R1	1	H1			1	H16	1	62			10	H4
徳之島町		1	H21	2	61･H5	1	H10	1	H15	1	62	1	H1		
天城町		1	H27	1	H3			1	H15	1	62				
伊仙町		1	H27	2	55･H3			1	H14	1	62			9	H4
和泊町		1	H29	1	H4			1	H14	1	62	1	H3	5	H4
知名町		1	H29	1	H2			1	H14	1	62			6	H4
与論町		1	H30	2	61･H5			1	H16	1	62	1	H3	4	H4
鹿児島															
北薩														1	H3
姶良・伊佐				2	54･H2	1	H11					1	H1	1	H4
大隅				3	53・H1	1	H6					1	H1		
熊毛				1	H3									1	H4
大島				1	62	1	R1							1	H4
屋久島事務所						1	56								
計		61		148		18		73		73		32		459	

（６）赤十字救護連絡所の医薬品等補充

自然公園財団高千穂河原支部（２か所）に赤十字救護連絡所を設置し、負傷者の手当及び関係機関への通報をお願いしている。

（７）救急用担架の配備

不特定多数の人が集合、通過する場所で急病人やけが人が発生した場合、誰でも自由に使用できるよう下記の場所に救急用担架を配備している。

○駅

鹿児島中央、鹿児島、出水、指宿、隼人、吉松

○港

鹿児島港、鹿児島新港、西之表港、名瀬港、亀徳港、和泊港、宮之浦港、垂水港、鴨池港、桜島港

○公園等

吉野公園、平川動物公園、自然公園財団高千穂河原支部、輝北うわば公園

○体育館

指宿市、枕崎市、南さつま市、出水市、伊佐市、霧島市（国分、隼人）、垂水市、曽於市

○運動場

県立野球場、県立陸上競技場、県立体育館

○神　社

霧島神宮、新田神社、護国神社

（８）海難被災者に対する救援

第十管区海上保安本部所属の巡視船に、海難被災者に配分することを目的として、救援物資を搭載している。

分置数及び配分状況は次のとおり

海難救援物資の第十管区海上保安本部巡視船備付　　(令和２年３月31日現在)

品　名	前年度繰越	補充数	配分・消却数	翌年度へ繰越
毛布	93	32	5	120
作業服	上 96 下 96	上 29 下 29	上 5 下 5	上 120 下 120
肌着	95	31	6	120
日用品	94	26	0	120
スリッパ	95	30	5	120

※前年度繰越は、船舶及び十管本部在庫分の合計

（９）臨時救護

公的機関・団体が開催する大会、祭典、行事等に救護員を派遣した。

ア　「第１９回かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会」救護

(ｱ)　８月２４日（土）　鹿児島港本港区

(ｲ)　派遣救護班１班　　職員８人及びボランティア９人

(ｳ)　取り扱い患者数　　２０人

イ　式典や行事への看護師派遣

(ｱ)　延べ派遣日数　　６日

(ｲ)　派遣看護師　　７人

(ｳ)　取り扱い患者数　　０人

（１０）非常炊き出し訓練の実施

町内会、学校、社会福祉協議会等の依頼により職員を派遣し、炊飯袋を使った炊き出し訓練を実施した。

・依頼件数　：３１件

・参加人数　：３，０９８人

（１１）赤十字防災セミナーの実施

過去の災害から得た教訓を踏まえ、いつ起こるか分らない災害からいのちを守るためには、自身と家族を守る「自助」の力と、地域住民が協力して難局を乗り切る「共助」の力を高めることが重要である。このため「防災・減災教育」の一環として、赤十字防災セミナーを下記のとおり実施した。

回	月/日(曜)	開催地域 (市町村)	実施団体	受講者数	実施内容
1	9/1(日)	鹿児島市田上	田上団地町内会	５２人	災害図上訓練(ＤＩＧ)
2	11/17(日)	鹿児島市郡山町	中福良自治会	１４０人	災害図上訓練(ＤＩＧ)
3	1/12(日)	鹿児島市玉里団地	玉里団地西第二 町内会	２９人	災害図上訓練(ＤＩＧ)
4	3/3(火)	南九州市	社会福祉法人 更正会	３人	災害エスノグラフィー
計				２２４人	

・災害エスノグラフィー：大規模災害の被災者の経験談を通じて、過去の災害の追体験をすることで、被災の具体的なイメージをグループワークで理解する。

・災害図上訓練(ＤＩＧ)：自らが居住する地域での、災害発生の危険性や防災上の資源を把握・理解し、それを地図に明記して、個人や地域単位で予め行うことをグループワークで検討する。

（１２）死亡弔慰金の支給

自然災害や火災等により死亡した方の遺族に対し、死亡弔慰金（１人２万円）を支給した。

地区・分区名	支給月	件数	支給金額（円）
奄美市地区	6	1	２０，０００
曽於市地区	7	1	２０，０００
出水市地区	7	1	２０，０００
鹿児島市地区	2	1	２０，０００
鹿児島市地区	3	1	２０，０００
鹿屋市地区	3	1	２０，０００
喜界町分区	3	1	２０，０００
計		7	１４０，０００

（１３）義援金の取扱い状況

国内において発生した災害被災者を救援するため義援金の募集を行ったが、次のとおり県民の皆様から温かい善意が寄せられた。　　令和２年３月３１日現在

義援金の名称（受付期間）	累　計	
	件数	金　額　（円）
東日本大震災災害義援金 （平成 23 年 3 月 12 日～令和 3 年 3 月 31 日）	１０，２２３	１，３８６，４４４，１４４
平成 28 年熊本地震災害義援金 （平成 28 年 4 月 15 日～令和 3 年 3 月 31 日）	１，８４０	２０５，１３４，５７３
平成 29 年 7 月 5 日からの大雨災害義援金 （平成 29 年 7 月 7 日～令和 3 年 3 月 31 日）	４０８	４３，５１７，９８４
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金 （平成 30 年 7 月 10 日～令和 2 年 6 月 30 日）	５９３	９９，４９１，０７２
平成 30 年北海道胆振東部地震災害義援金 （平成 30 年 9 月 11 日～令和 2 年 3 月 31 日）	２０３	１０，５００，６１０
令和元年 8 月豪雨災害義援金 （令和元年 9 月 2 日～令和 2 年 8 月 31 日）	４１	９４６，１２０
令和元年台風１５号千葉県災害義援金 （令和元年 9 月 18 日～令和 2 年 6 月 30 日）	７４	２，９２４，３５３
令和元年台風 15 号東京都義援金 （令和元年 9 月 30 日～令和 2 年 2 月 29 日）	１５	５１，４３９
令和元年台風 19 号災害義援金 （令和元年 10 月 16 日～令和 3 年 3 月 31 日）	３４２	４０，７００，７３０
合　　計	１３，７３９	１，７８９，７１０，９９５

※寄せられた義援金（県支部受付分）は、全額日本赤十字社本社を通じて被災自治体に送金している。

2　看　護　師　の　養　成

救護員として救護業務に従事する看護師および医療施設で必要な看護師を養成するために、日本赤十字九州国際看護大学（福岡県宗像市）の学生に対し、日本赤十字社鹿児島県支部奨学金を貸与した。

また、鹿児島赤十字病院の奨学生４名の学生に対し、奨学金の一部を助成した。

・「日本赤十字社鹿児島県支部奨学金」貸与者　　４名（各学年１名）



日本赤十字九州国際看護大学



授業の様子

3　救急法等の講習

県民の方々に広く安全思想を普及し、健康で幸せな生活をしていただくため、救急法・水上安全法・健康生活支援講習・幼児安全法の講習を実施しており、令和元年度は次のとおり実施した。また、赤十字救急員等の資格継続研修は、平成３０年度をもって廃止となった。

◇各種講習の開催状況

講習種別		回数（回）	受講者数（人）
救急法	基礎講習	19	403
	救急員養成講習	13	271
	短期講習	168	11,220
	計	200	11,894
水上安全法	救助員養成講習Ⅰ	1	16
	救助員養成講習Ⅱ	0	0
	短期講習	29	1,584
	計	30	1,600
健康生活支援講習	支援員養成講習	2	38
	短期講習	31	1,077
	計	33	1,115
幼児安全法	支援員養成講習	6	168
	短期講習	61	1,772
	計	67	1,940
合計		330	16,549

（1）救　急　法

病気やけが、災害から自分自身を守り、急病人やけが人を正しく救助して医師または救急隊などに引き継ぐまでの一次救命処置と応急手当の知識と技術を指導するもので、心肺蘇生・止血・きずや骨折の手当・搬送が主な内容である。

ア　基礎講習

	実施日	対象	主　催	受講者（人）
1	5月　11日	一　般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	13
2	6月　5日	職　域	鹿児島県警察学校（姶良市）	46
3	7月　13日	日赤職員等	鹿児島赤十字病院（鹿児島市）	11
4	7月　20日	一　般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	27
5	7月　29日	学　生	鹿児島城西高等学校（日置市）	11
6	8月　10日	日赤職員等	鹿児島赤十字病院（鹿児島市）	16
7	8月　16日	職　域	鹿児島県社会福祉協議会（鹿児島市）	22
8	8月　20日	学　生	志學館大学（鹿児島市）	13
9	8月　22日	学　生	薩摩中央高等学校（さつま町）	18
10	8月　30日	学　生	神村学園専修学校（いちき串木野市）	28
11	9月　18日	職　域	鹿児島県社会福祉協議会（鹿児島市）	20
12	10月　1日	職　域	鹿児島県社会福祉協議会（鹿児島市）	17
13	10月　15日	学　生	鳳凰高等学校（南さつま市）	19
14	11月　5日	学　生	鳳凰高等学校（南さつま市）	20
15	12月　4日	職　域	鹿児島県警察学校（姶良市）	54
16	1月　15日	一　般	屋久島環境文化研修センター（屋久島町）	7
17	1月　21日	学　生	国分中央高等学校（霧島市）	38
18	2月　1日	一　般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	11
19	2月　19日	学　生	鹿児島医療技術専門学校（鹿児島市）	12
合計19回				403

イ　救急員養成講習

	実施日	対　象	主　　催	受講者（人）
1	5月12日～19日	一　般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	7
2	6月5　日　～　7　日	職　域	鹿児島県警察学校（姶良市）	45
3	7月13日～15日	日赤職員等	鹿児島赤十字病院（鹿児島市）	11
4	7月21日～28日	一　般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	21
5	7月30日～8月1日	学　生	鹿児島城西高等学校（日置市）	11
6	8月10日～12日	日赤職員等	鹿児島赤十字病院（鹿児島市）	16
7	8月21日～23日	学　生	志學館大学（鹿児島市）	12
8	10月16日～18日	学　生	鳳凰高等学校（南さつま市）	19
9	11月6　日　～　8　日	学　生	鳳凰高等学校（南さつま市）	20
10	12月4　日　～　6　日	職　域	鹿児島県警察学校（姶良市）	54
11	1月15日～17日	一　般	屋久島環境文化研修センター（屋久島町）	7
12	1月22日～24日	学　生	国分中央高等学校（霧島市）	37
13	2月19日～21日	学　生	鹿児島医療技術専門学校（鹿児島市）	11
合計13回				271

ウ　「Ｗｏｒｌｄ　Ｆｉｒｓｔ Ａｉｄ　Ｄａｙ　２０１９」（ワールド　ファースト　エイドデー）の開催

９月８日（日）に、鹿児島市のオプシアミスミにおいて開催した。

このイベントは国際赤十字・赤新月社連盟が、９月の第２土曜日を「World　First　Aid Day」と定め救急法等普及のために世界各地で行っており、鹿児島県支部でも救急法や幼児安全法の普及を行った。

また、親子で楽しんでいただくためにキッズスペースを設け、赤十字市谷山赤十字奉仕団や青年赤十字奉仕団の協力のもと、子ども達に折り紙作りやバルーンアートをプレゼントした。



心肺蘇生の講習



キッズスペース

エ　短期講習

県下各地域で 168 回実施し、11,220 人の受講者があった。

（２）水上安全法

水の事故から生命を守るため、水による事故を未然に防ぎ、溺れている人を正しく救助するための知識や技術を指導するもので、水の活用と事故防止・泳ぎの基本と自己保全・救助方法が主な内容である。

ア　救助員養成講習Ⅰ（プールで講習を実施）

	実施日	対　象	主　　催	受講者（人）
1	2月 8日～15日	一　般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	16
計１回				16

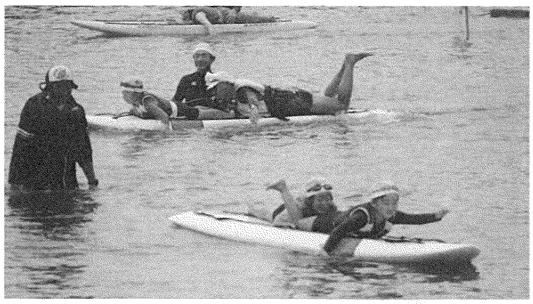
イ　救助員養成講習Ⅱ（海で講習を実施）

令和元年度は実施しなかった。

ウ　親子で体験！「海の安全教室」の開催

水に親しみ、水の事故から命を守るために必要な知識・技術を学んでいただくことを目的に、親子で体験！「海の安全教室」の開催を８月４日（日）に鹿児島市桜島町のレインボービーチで開催した。

当日は、親子 11 組 30 人が、水の事故に遭遇した際に自分を守る方法（着衣泳、ペットボトルでの浮身）や溺者の救助方法を体験した。



レスキューボートを体験



身近なものをつかった救助体験

エ　短期講習

県下各地域で 29 回実施し、1,584 人の受講者があった。

（３）健康生活支援講習

高齢者の介護の方法のほか、高齢期を迎える前からの健康管理、地域での高齢者支援などを内容としている。

ア　支援員養成講習

	実施日	対　象	主　　催	受講者（人）
1	7 月 18 日～9 月 26 日	一　般	肝付町社会福祉協議会（肝付町）	32
2	10 月 19 日～10 月 20 日	一　般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	6
計 2 回				38

イ　短期講習

県下各地域で 31 回実施し、1,077 人の受講者があった。

（４）幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気への対処、乳幼児の心肺蘇生とＡＥＤの使い方のほか、災害時の乳幼児支援などを内容としている。

ア　支援員養成講習

	実施日	対　象	主　　催	受講者（人）
1	4月 25日～26日	学 生	鹿児島キャリアデザイン専門学校（鹿児島市）	46
2	6月 29日～30日	一 般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	17
3	8月 28日～29日	学 生	神村学園専修学校（いちき串木野市）	26
4	9月 12日～13日	学 生	第一幼児教育短期大学（霧島市）	33
5	11月 23日～24日	一 般	日赤鹿児島県支部（鹿児島市）	26
6	2月　5日～ 7日	学 生	鳳凰高等学校（南さつま市）	20
合計6回				168

イ　短期講習会

県下各地域で61回開催し、1,772人の受講者があった。

（５）救急法等指導員の在籍状況

令和２年３月３１日現在

区　　分	支部職員（人）	施設職員（人）	ボランティア（人）	計（人）
救　急　法	8	30	76	114
水上安全法	2	9	32	43
健康生活支援講習	2	14	10	26
幼児安全法	3	9	24	36
計	15	62	142	219

4　赤十字奉仕団の活動

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティアの組織である。

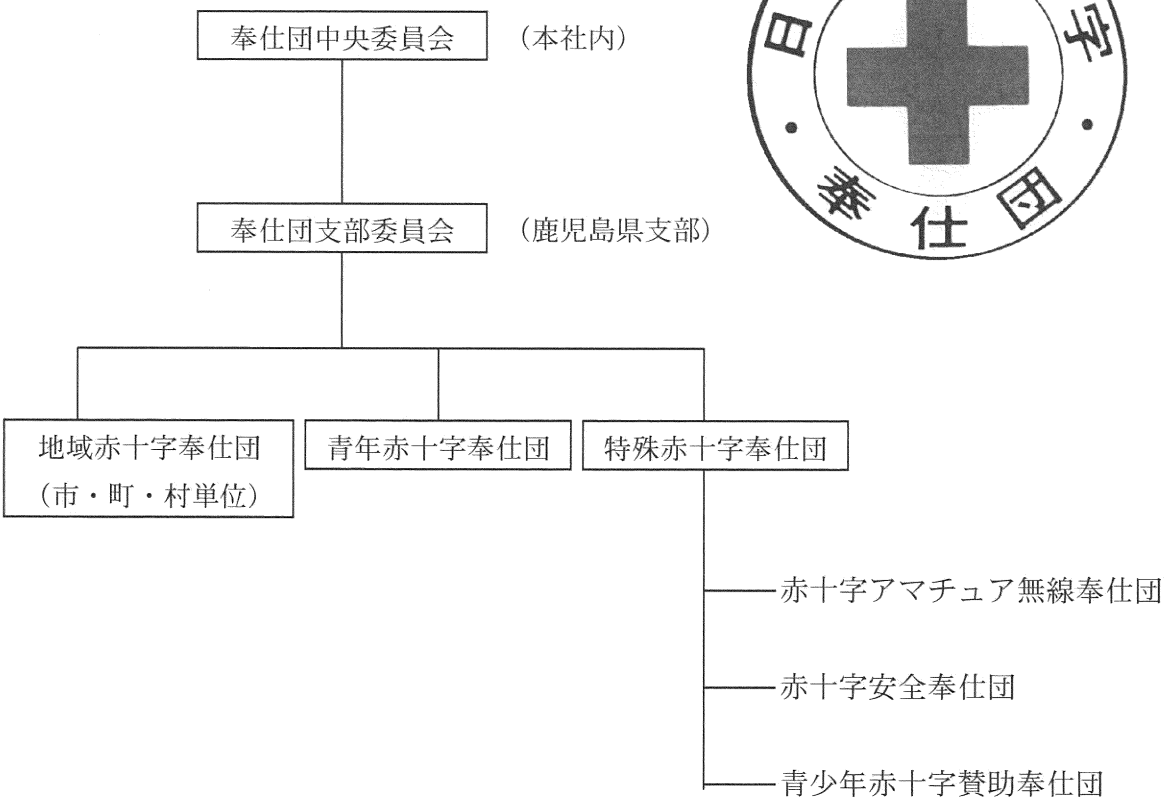
赤十字奉仕団は、明るく住みよい地域社会を築きあげていくために地域ごとに結成された地域赤十字奉仕団と、勤労青年や学生によって結成されている青年赤十字奉仕団、及びアマチュア無線など特殊な技術を持った人達で組織されている特殊赤十字奉仕団からなっている。

当県支部の組織及び結成状況等は次のとおりとなっている。

赤十字奉仕団員の信条

一、すべての人びとのしあわせをねがい、
陰の力となって人びとに奉仕する。
一、常にくふうして人びとのために、
よりよい奉仕ができるよう努める。
一、身近な奉仕をひろげ、
すべての人びとと手をつないで、
世界の平和につくす。

（1）赤十字奉仕団組織図



（２）赤十字奉仕団及び奉仕団員数

（令和２年３月31日現在）

区分		団数	団員数		
			男（人）	女（人）	計（人）
地域赤十字奉仕団		61	180	14,592	14,772
青年赤十字奉仕団		1	6	12	18
特殊奉仕団	赤十字アマチュア無線奉仕団	1	316	8	324
	赤十字安全奉仕団	1	92	59	151
	青少年赤十字賛助奉仕団	1	33	6	39
計		65	627	14,677	15,304

（３）地域赤十字奉仕団結成状況

（令和２年３月31日現在）

区別	市町村数（A）	奉仕団結成地域（B）	奉仕団数	結成率（B／A）（%）
市	19	16	43	84.2
町・村	24	18	18	75.0
計	43	34	61	79.0

（４）総会及び研修会等開催状況

行事名	会場	期日	主催	参加者
青年赤十字奉仕団総会	赤十字会館	４月７日	青年奉仕団	５人
赤十字安全奉仕団研修会及び総会	赤十字会館	４月20日	安全奉仕団	69人
赤十字奉仕団鹿児島県支部委員会	県婦人会館	５月16日	支部委員会 支部	13人
青少年赤十字賛助奉仕団総会	赤十字会館	５月18日	賛助奉仕団	17人
赤十字奉仕団委員長会議	赤十字会館	６月18日	支部	62人
赤十字ボランティアリーダーシップ研修	マリンパレスかごしま・赤十字会館	11月28～29日	支部	22人
九州ブロック赤十字奉仕団委員長会議	宮崎県支部	１月30～31日	宮崎県支部	２人

（５）地域赤十字奉仕団研修会開催状況

赤十字についての知識と奉仕団活動に必要な技術を習得し、奉仕団員の意識高揚を図ることを目的に次の１９奉仕団で開催し８７４人が参加した研修会に助成を行った。

奉仕団を２ブロックに分けて１ブロックずつ隔年で実施しており、令和元年度は「一次救命処置」や「包帯法」、「リラクゼーション」をテーマに講習を行った。

	奉仕団名	開催日	曜日	参加数(人)	会場
1	出水市	6月11日	火	30	出水市野田老人福祉センター
2	姶良市蒲生	6月21日	金	42	蒲生公民館
3	薩摩川内市樋脇	7月9日	火	55	樋脇保健センター
4	薩摩川内市祁答院	7月12日	金	80	祁答院保健センター
5	伊佐市	7月24日	水	61	大口元気こころ館
6	薩摩川内市下甑	8月24日	土	52	下甑町長浜地区コニュニティ協議会
7	屋久島町	8月25日	日	30	屋久島町社会福祉協議会 縄文の苑
8	宇検村	8月26日	月	28	地域福祉センターやけうちの里
9	奄美市住用	8月26日	月	32	住用公民館
10	奄美市笠利	8月27日	火	62	奄美市笠利農村改善センター
11	大和村	8月27日	火	28	大和村防災センター
12	奄美市名瀬	8月28日	水	42	奄美文化センター
13	龍郷町	8月28日	水	30	龍郷町生涯学習センターりゅうがく館
14	いちき串木野市	9月1日	日	41	いちき串木野市冠岳交流センター
15	薩摩川内市川内	10月11日	金	56	薩摩川内市総合福祉センター
16	霧島市隼人	10月18日	金	33	霧島市天降川地区共同利用施設
17	薩摩川内市東郷	10月25日	金	52	東郷保健センター
18	喜界町	10月26日	土	98	喜界町自然休養村管理センター
19	さつま町	11月13日	水	22	宮之城ひまわり館
			合計	874	

（６）地域高齢者生活支援事業の実施

地域赤十字奉仕団が高齢者世帯を訪問し、話し相手・買物・清掃援助等の生活支援活動を実施した。活動費の補助として次の２６奉仕団に１団あたり３万円を交付した。

・鹿児島市谷山　・鹿児島市吉田　・鹿児島市郡山　・指宿市指宿
・薩摩川内市川内　・薩摩川内市祁答院　・日置市伊集院　・日置市吹上
・霧島市隼人　・霧島市牧園　・南さつま市　・志布志市志布志
・志布志市有明　・奄美市住用　・奄美市笠利　・南九州市知覧
・姶良市姶良　・姶良市加治木　・姶良市蒲生　・さつま町
・屋久島町　・徳之島町　・天城町　・伊仙町
・和泊町　・知名町

（7）赤十字奉仕団登録一覧表

番号	奉仕団名	結成年月日	団員数		
			男	女	合計
1	鹿児島市	S25. 4. 1	0	16	16
2	鹿児島中央	S41. 4. 1	0	227	227
3	鹿児島市谷山	S52. 4. 1	0	25	25
4	鹿児島市吉田	S24. 12. 1	0	44	44
5	鹿児島市郡山	S24. 12. 1	0	30	30
6	鹿屋市	S24. 12. 1	0	120	120
7	出水市	H10. 3. 19	4	94	98
8	指宿市	S24. 12. 1	0	27	27
9	指宿市山川	S24. 12. 1	0	35	35
10	指宿市開聞	S24. 12. 1	0	103	103
11	西之表市	S24. 12. 1	0	31	31
12	薩摩川内市川内	H3. 4. 17	0	185	185
13	薩摩川内市樋脇	S24. 12. 1	0	30	30
14	薩摩川内市入来	S56. 4. 1	0	45	45
15	薩摩川内市東郷	S24. 12. 1	0	110	110
16	薩摩川内市祁答院	S24. 12. 1	0	56	56
17	薩摩川内市下甑	H28. 4. 1	10	33	43
18	日置市東市来	S24. 12. 1	0	50	50
19	日置市伊集院	S24. 12. 1	0	70	70
20	日置市日吉	S24. 12. 1	1	154	155
21	日置市吹上	S56. 4. 1	0	302	302
22	曽於市大隅	S30. 4. 1	17	97	114
23	曽於市財部	S38. 4. 1	27	62	89
24	曽於市末吉	S52. 4. 1	65	227	292
25	霧島市国分	S24. 12. 1	0	346	346
26	霧島市牧園	S24. 12. 1	4	111	115
27	霧島市霧島	S24. 12. 1	0	21	21
28	霧島市隼人	S24. 12. 1	0	370	370
29	いちき串木野市	S24. 12. 1	0	3, 749	3, 749
30	南さつま市	S24. 12. 1	0	289	289
31	志布志市松山	S24. 12. 1	0	40	40
32	志布志市志布志	S56. 4. 1	0	550	550
33	志布志市有明	S24. 12. 1	0	60	60
34	奄美市名瀬	S60. 9. 1	0	135	135
35	奄美市住用	H元. 7. 1	0	142	142
36	奄美市笠利	S62. 9. 1	0	580	580
37	南九州市頴娃	S24. 12. 1	0	58	58
38	南九州市知覧	S24. 12. 1	0	130	130
39	南九州市川辺	S24. 12. 1	0	65	65
40	伊佐市	H2. 10. 5	48	106	154
41	姶良市姶良	S30. 4. 1	0	21	21
42	姶良市加治木	H7. 12. 20	0	13	13
43	姶良市蒲生	S24. 12. 1	0	88	88
44	さつま町	S24. 12. 1	0	18	18
45	大崎町	S56. 4. 1	4	68	72
46	錦江町	S24. 12. 1	0	20	20
47	南大隅町	S24. 12. 1	0	172	172
48	肝付町	S24. 12. 1	0	108	108
49	南種子町	S52. 4. 1	0	473	473
50	屋久島町	S24. 12. 1	0	55	55
51	大和村	H元. 7. 21	0	97	97
52	宇検村	H5. 7. 1	0	80	80
53	瀬戸内町	S62. 4. 28	0	435	435
54	龍郷町	S62. 5. 10	0	700	700
55	喜界町	H2. 5. 17	0	719	719
56	徳之島町	H元. 4. 1	0	650	650
57	天城町	H元. 4. 1	0	700	700
58	伊仙町	H元. 7. 1	0	248	248
59	和泊町	S59. 8. 15	0	550	550
60	知名町	S62. 6. 1	0	352	352
61	与論町	S62. 5. 1	0	100	100
地域奉仕団　計61団			180	14, 592	14, 772
62	青年	S30. 4. 1	6	12	18
青年奉仕団　計1団			6	12	18
63	安全	S54. 2. 17	92	59	151
64	ｱﾏﾁｭｱ無線	S50. 4. 1	316	8	324
65	賛助	H14. 11. 13	33	6	39
特殊奉仕団　計3団			441	73	514
総計　65団			627	14, 677	15, 304

5　青少年赤十字の活動

赤十字は、未来を担う子どもたちが、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、優しさや思いやりの心を育むために、学校教育現場において青少年赤十字活動を推進している。

また、活動の充実のためにリーダーシップ・トレーニング・センターなどの研修会や、指導にあたる教職員の指導力向上のため、各種指導者研修会を行った。

ちかい

わたくしは
青少年赤十字の一員として
心身を強健にし
人のためと郷土社会のため
国家と世界のために
つくすことをちかいます



実践目標

健康・安全
奉仕
国際理解・親善

態度目標

気づき
考え
実行する

（1）校種別加盟状況

令和２年３月３１日現在

区　　分	加盟学校(園)数	メンバー数(人)	鹿児島県内の設置状況等	
			学校(園)数	児童生徒数(人)
幼　稚　園	38	3,796	334	24,876
保　育　園	34	1,576		
小　学　校	307	51,146	506	90,472
中　学　校	131	22,917	225	44,937
高等学校	23	10,239	89	43,656
特別支援学校	4	296	17	2,371
合　計	537	89,970	1,171	206,312

※　鹿児島県内の学校（園）数、児童生徒数(保育園を除く)は平成31年4月8日現在。
(休校中の学校は除く。令和元年度「鹿児島県の教育行政」より)
保育所(園)は、教育委員会管轄でないため、園数・園児数については実数を把握できない。

（２）加盟校の推移

年　度	区　　分	幼・保	小学校	中学校	高校	特別支援	小～特小計	合計
令和元年	学校（園）数	72	307	131	23	4	465	537
	県加盟校率		60.6	58.2	25.8	23.5	55.5	
	メンバー数	5,372	51,146	22,917	10,239	296	84,598	89,970
	県メンバー率		56.5	50.9	23.4	12.4	46.6	
平成30年	学校（園）数	70	301	130	23	4	458	528
	県加盟校率		59.4	56.7	25.8	23.5	54.4	
	メンバー数	5,426	51,387	22,024	10,909	294	84,614	90,040
	県メンバー率		56.4	48.5	24.5	12.8	46.1	
平成29年	学校（園）数	68	300	128	23	3	454	522
	県加盟校率		58.0	54.9	25.6	17.6	53.0	
	メンバー数	5,257	48,124	22,111	11,510	269	82,014	87,271
	県メンバー率		53.0	47.9	21.2	12.1	42.3	

（３）会議等の参加及び開催

	行　事　名	期　日	会　場	参加者
本社	青少年赤十字支部担当者研修会	5/9（木）～5/10（金）	本社	濱田嘱託
	青少年赤十字全国指導者協議会総会	6/24（月）～6/25（火）	本社	六笠会長
	全国青少年赤十字賛助奉仕団総会役員会	7/9（火）～7/10（水）	本社	野村委員長
九州	青少年赤十字指導者協議会会長・担当者会議	11/15（金）～11/16（土）	鹿児島県支部赤十字会館	六笠会長、中村副会長、樫木副会長 野村委員長 事務局長、事業推進課長、嘱託
支部	青少年赤十字指導者協議会総会	5/18（土）	県赤十字会館	43人

（4）研修活動

	行　事　名	期　日	会　場	参加者等
本社	青少年赤十字L·T·C 指導者養成講習会	5/24(金)～5/26(日)	国立オリンピック 記念センター	福平中学校　高崎 武士
	青少年赤十字指導者 中央講習会	11/23(土)	本社	田布施小学校　鑪 健治
	指導主事対象青少年赤十字研究会	1/9(木)	本社	参加者なし
	青少年赤十字 スタディー・センター	3/22(日)～3/26(木)	山中湖村東照館	新型コロナウイルス感染症 のため中止
九州	九州ブロック青少年 赤十字指導者講習会	8/22(木)～8/23(土)	鹿児島県 ホテルアクシア くしきの	鹿児島情報　宿口 泰伸 ほぴあこども園　萩原 亜矢美 スタッフ　9名
	第6ブロック青少年 赤十字海外派遣事業	8/17(金)～8/23(木)	ベトナム 社会主義共和国	甲南高校　下窪 ゆり 鹿児島玉龍高校　那加野 翁士朗 国分中学校 岩切 輝行(指導者)
支部	校長・教頭・指導主事 対象青少年赤十字研修会	6/1(土)	県赤十字会館	校長等15人
	園児のための青少年赤十字 講習会	6/8(土)	県赤十字会館	幼・保育園の指導者 5人
	離島(屋久島)一日L·T·C	7/14(日)	安房公民館	小・中学生16人
	夏季高等学校L·T·C	8/8(木)～8/10(土)	霧島自然ふれあい センター	高校生23人
	青少年赤十字研究推進園 研究発表会	11/16(土)	ほぴあこども園	九ブロ関係者他42人
	中学校一日L·T·C	1/18(土)	県赤十字会館	中学生29人
	小学校一日L·T·C	1/25(土)	県赤十字会館	小学生28人

※L·T·C ＝ リーダーシップ・トレーニング・センター



夏季L·T·C（高等学校）活動の様子



一日L·T·C（中学校）活動の様子

（５）加盟推進活動

青少年赤十字の加盟校を増やすために、教育事務所や未加盟校を訪問し、青少年赤十字の加盟推進を行った。

・ 学校巡回訪問　１０月７日（月）～１０月３０日（水）
　鹿児島市教育委員会管内６４学校・教育委員会等
　青少年赤十字賛助奉仕団員・指導者協議会役員・事務局で訪問

（６）高校協議会の活動

ア　月例会の開催（月１回）

イ　特別養護老人ホーム「錦江園」の訪問

・ 月１回　錦江園の訪問（原則　第３日曜日）
・ 錦江園の行事へのボランティアとしての参加

ウ　献血ルームでのボランティア

・ 献血ルームでの献血の呼びかけ（毎土、日曜日）
・ クリスマス献血キャンペーンへの参加

（７）機関誌の発行

・ 青少年赤十字機関紙「ふれあいの窓（第３７号）」　2,000 部
・ 高校生機関紙「光輝（第２８号）」　800 部
・ 青少年赤十字賛助奉仕団広報誌「さくらじま(第９号)」　850 部

（８）その他の青少年赤十字活動

ア　ＮＨＫ海外たすけあい街頭募金への参加

１２月　８日（日）　薩摩川内市、鹿屋市

１２月１５日（日）　姶良市、鹿児島市

１２月２１日（土）　鹿児島市

１２月２２日（日）　南さつま市　　延べ２０６人参加

イ　病気見舞カードの作成

病院に入院されている人々に病気お見舞いカードの送付

ウ　使用済み切手・書損じはがきの回収

アジア、アフリカの医療に恵まれない人々を保健医療の面でサポートするために活用する。（公益社団法人　日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）へ送付）

エ　ペットボトル・キャップの回収

予防接種を受けられない発展途上国の子どもたちのワクチン代として活用する。

（延べ６学校　約３９７ｋｇをイオン鹿児島へ（イオン鹿児島はリサイクル業者で換金後）、「認定ＮＰＯ法人　世界の子どもにワクチンを日本委員会（ＪＣＶ）」へ送金。）

オ　１円玉募金の実施

２カ国（ネパール、バヌアツ）に対し、子どもたちが衛生的な行動を身につける知識と技術の普及や、学校における災害リスクの軽減や防災の正しい知識を得る環境整備を目的とした支援を実施している。

（延べ３学校等　７８，６０４円を本社へ送金）

カ　プルタブの回収

学校で集めたプルタブをリサイクル業者で換金後、１円玉募金として、本社に送金。

（延べ５学校　１９６ｋｇ・２１，１３８円）



NHK海外たすけあい街頭募金



JRC加盟園による一円玉募金持参のようす

（９）校種別加盟校名簿

ア　保育園・幼稚園　　令和２年３月３１日現在

市町村	保育園	幼稚園
鹿児島市	真砂、原良、東桜島、武 ほぴあこども、柳田、吉野 南林寺、玉里、西紫原、松原 清水、あたご、下伊敷 田上、鴨池、薬師、なぎさ	太陽の子、辻ヶ丘、鴨池しらうめ 玉里善き牧者、谷山善き牧者 鹿女短附属かもめ、鹿児島 若葉、千年、清谿、鹿女短附属すみれ 武、◎桜ヶ丘中央
鹿屋市		信愛こどもの園、南部、いずみ
指宿市		柳和、指宿
垂水市		カトリック垂水、江ノ島
薩摩川内市	高城、善福寺、びぼあ、大村 隈之城、青山、勝目、あさひ	青山、樋脇、祁答院 かのこ
日置市	あづま	東市来、土橋、日置小附属
曽於市	橲幼児学園	大隅中央
姶良市	◎川野	
霧島市		カトレア、あおば
いちき串木野市		旭
南さつま市		加世田しらうめ
南九州市	頴娃	
さつま町	恵光	鶴田
長島町		獅子島
肝付町	あけぼの	おおぞら
屋久島町		すみれ
和泊町	わどまり	
知名町	しらゆり	すまいる、きらきら
計	３４園	３８園

◎は新規加盟（Ｒ１）

イ　小学校・中学校　　令和２年３月３１日現在

市町村	小学校	中学校
鹿児島市	大明丘、名山、山下、城南 原良、明和、武岡、清水、福平 武、田上、広木、中洲、中名 八幡、紫原、鴨池、南、桜丘東 宇宿、向陽、伊敷、伊敷台、花野 黒神、谷山、吉野東、坂元台、清和 平川、坂元、中郡、花尾、皇徳寺 本名、宮、本城、牟礼岡、桜洲 東桜島、前之浜、石谷、春山、郡山 南方、生見、喜入、桜峰、瀬々串 西田、西紫原、大龍	坂元、清水、甲東、武岡 武、天保山、南、伊敷台 東桜島、黒神、谷山、谷山北 吉田北、吉田南、鴨池、伊敷 桜島、郡山、福平、桜丘 和田、吉野、星峯、喜入 ◎錫山、◎松元
鹿屋市	笠野原、田崎、西原、寿、祓川 串良、野里、南、輝北 上小原、細山田、大黒 鹿屋、大姶良、鶴峰、高須 高隈、東原、寿北、西俣 西原台、吾平、下名、花岡学園	鹿屋、第一鹿屋、鹿屋東 串良、上小原、吾平、輝北 花岡学園、大姶良、細山田、高隈 田崎
枕崎市	枕崎	枕崎、立神
阿久根市	折多、尾崎、脇本、大川 阿久根、鶴川内、田代	大川、阿久根、三笠、鶴川内
出水市	出水、西出水、米ノ津、米ノ津東 上場、野田、蕨島、下水流、鶴荘学園	出水、高尾野、鶴荘学園、米ノ津 大川内
指宿市	指宿、今和泉、利永、開聞、川尻 山川	南指宿、西指宿
西之表市	下西、安城、上西	
垂水市	柊原、協和、牛根、松ヶ崎、新城 境、水之上、垂水	垂水中央
薩摩川内市	川内、隈之城、平佐東、永利、峰山 八幡、高来、樋脇、水引 副田、藺牟田、上手、 里、手打、長浜、◎東郷学園 大東、城上、亀山 黒木、入来、市比野	入来、祁答院 里、上甑、海陽 海星、水引、◎東郷学園
日置市	伊作田、湯田、美山 伊集院、土橋、永吉	上市来、土橋、鹿児島育英館 日吉、伊集院
曽於市	笠木、大隅南、高岡、諏訪、岩北 横、深川、柳迫、月野、財部南 光神、恒吉、中谷、岩南 菅牟田	財部
霧島市	国分、溝辺、横川、安良、佐々木 中津川、霧島、富隅、小浜、福山 中福良、持松、向花、万膳、大田 宮内、小野、国分南、竹子	国分、牧園 隼人、溝辺

市町村	小学校	中学校
いちき串木野市	串木野、照島、羽島、旭、生福 冠岳、川上、神村学園初等部	串木野、串木野西、生冠、市来 神村学園中等部
南さつま市	加世田、阿多、◎笠沙、◎田布施 大浦、内山田、長屋、◎川畑	加世田、金峰
志布志市	泰野、志布志、原田、森山、田之浦 有明、松山、通山、尾野見	有明、◎松山
奄美市	朝日、赤木名、緑が丘、手花部 佐仁、節田、崎原	小宿、崎原
南九州市	頴娃、別府、松ケ浦、大丸、知覧、松原 中福良、霜出、手蓑、九玉、◎川辺	知覧、川辺
伊佐市	大口東、羽月、曽木、羽月西 本城、牛尾、菱刈	
姶良市	三船、北山、加治木、帖佐 漆、西浦、蒲生	山田
三島村	三島、大里、竹島、片泊	三島、大里、竹島、片泊
十島村	悪石島、中之島、平島 諏訪瀬島、宝島、口之島	悪石島、中之島、平島 諏訪瀬島、宝島、口之島
さつま町	流水、鶴田、永野 柏原、求名、中津川	宮之城
長島町	鷹巣、川床、城川内、獅子島	川床、獅子島、長島、平尾、鷹巣
湧水町	上場	栗野、吉松
大崎町	大丸、大崎、中沖	
東串良町	柏原	
錦江町	神川、大原	田代、錦江
南大隅町	神山、佐多	根占、第一佐多
肝付町	波野、内之浦、国見	
南種子町	中平、花峰、茎南、大川、平山 長谷	
屋久島町	金岳、八幡、◎神山	金岳、◎安房
大和村	大棚、今里、大和	大和
宇検村	名柄	田検、名柄
瀬戸内町	薩川、諸鈍、伊子茂 与路、阿木名	諸鈍、伊子茂 阿木名、与路
龍郷町	龍郷、円、龍瀬、赤徳	赤徳
喜界町		喜界
徳之島町	亀津、花徳、母間、神之嶺、 手々、山、尾母、◎亀徳	井之川、亀津、東天城、手々、山、尾母
天城町	天城、兼久、西阿木名	西阿木名、北
伊仙町	馬根	面縄
和泊町	大城、内城、国頭、和泊	城ヶ丘、和泊
知名町	住吉、下平川、知名、上城、田皆	田皆、知名
与論町	那間、与論、茶花	与論
計	３０７校	１３１校

◎は新規加盟（Ｒ１）

ウ　高等学校・特別支援学校　　令和２年３月３１日現在

市町村	高等学校
鹿児島市	鹿児島玉龍、鹿児島実業、鹿児島 鹿児島情報、鹿児島女子、甲南 樟南、武岡台
鹿屋市	鹿屋養護学校
枕崎市	鹿児島水産
出水市	出水中央
指宿市	指宿、指宿養護
日置市	鹿児島育英館、鹿児島城西
霧島市	国分中央、福山
いちき串木野市	神村学園
南さつま市	鳳凰、加世田常潤、南薩養護学校
志布志市	尚志館
南九州市	薩南工業
さつま町	薩摩中央
南大隅町	南大隅
中種子町	中種子養護学校
与論町	与論
計	２７校

高校２３校　　特別支援学校４校

6　国　　際　　活　　動

世界には、現在１９２の国々に、赤十字社や赤新月社等があり、日本赤十字社は、その一員としてジュネーブにある赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟及び各国の赤十字社や赤新月社と連携を取りあって、紛争や自然災害などで苦しんでいる人々に対する緊急救援・復興支援から長期にわたる人道ニーズへの取組みまで、長期にわたり支援を行っている。

（１）青少年赤十字海外派遣事業

日本赤十字社が行う国際活動や開発協力等を体験するとともに、海外の青少年赤十字メンバーとの交流を通じ、広く国際理解・親善を深めることを目的として、青少年赤十字メンバー及び指導者をベトナムに派遣した。(団長県：沖縄県)

８月１７日（土）～２３日（金）

高校生メンバー２人、指導者１人が参加

・九州ブロック国際活動所要額　５，０００千円(内、本県支部分担額625千円)



「マングローブ」植林の様子



ベトナム青少年赤十字との交流の様子

（２）「ＮＨＫ海外たすけあい」寄附金募集

１２月１日から２５日まで、日本放送協会(NHK)及び社会福祉法人ＮＨＫ厚生文化事業団との共催により「第３７回ＮＨＫ海外たすけあい」キャンペーンを実施した。

県内７ヵ所で実施した街頭募金では、総額４２８，１３３円、県全体で５，２６２，１７０円の温かい善意が寄せられた。



街頭募金の様子（天文館）



NHK 鹿児島児童合唱団によるコンサートも大好評

（３）海外救援金の取扱い状況

令和２年３月３１日現在

救援金の名称（受付期間）	累　計	
	件　数	金　額　（円）
中東人道危機救援金 （平成 27 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）	5	２５,５０２
バングラデシュ南部避難民救援金 （平成 29 年 9 月 22 日～令和 2 年 3 月 31 日）	1	5,７１５
合　　計	6	３１,２１７

（４）その他

ア　外国からの引揚者に対する援護

中国からの本県永住帰国者に対し長年の苦労に報いるため、援護金及び援護品を支給しているが、令和元年度の該当は無かった。

イ　安否調査

赤十字では、戦争その他の事故により海外で消息を絶った人の動静を調査しているが、本県支部における令和元年度の取り扱いは無かった。

7　広　報　活　動

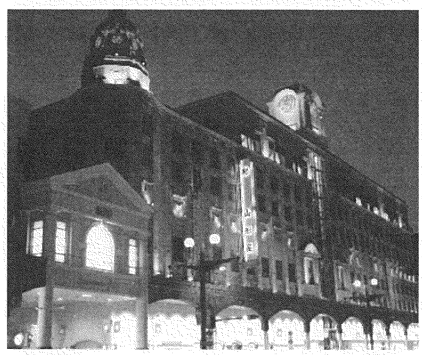
赤十字に対する県民の理解と協力を促進するため、５月の会員増強運動月間を中心に、イベントの活用、チラシや機関紙の配布、地区・分区の協力を通じた地域住民への広報を行ったほか、各地区・分区、奉仕団、青少年赤十字加盟校などへ視聴覚資材の貸出しを行い、赤十字思想の普及に役立ててもらった。

（１）５月の会員増強運動月間広報

ア　「赤十字レッドライトアッププロジェクト２０１９」の実施

株式会社山形屋にご協力をいただき、５月１日から５月３１日までの期間、建物を赤十字の赤色にライトアップし、赤十字運動月間の周知及び「人道」の理解促進に努めた。また、同施設に赤十字活動資金協力呼びかけの懸垂幕を掲出した。





イ　天文館わくわくワークへの出展

大型連休中の５月３日～４日、鹿児島市の天文館アーケードにおいて開催された、お仕事体験イベントに「日本赤十字社災害救護体験ブース」を出展し、防災クイズのほか炊き出し、無線を使った交信や救護服の試着など様々な体験をしていただき、赤十字活動のＰＲを行った。





ウ　啓発活動

５月２日、天文館地域において、リーフレット・ティッシュの配布活動を行い、赤十字運動月間の啓発に努めた。





エ　奄美市地区の広報

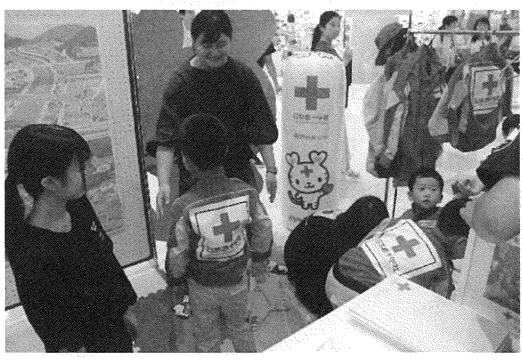
奄美市地区において、５月会員増強運動月間期間中、地元ＦＭラジオでの広報を行い、赤十字活動資金への協力を呼びかけた。

（２）各種イベント等の活用による広報

ア　「姶良市防災フェスタ」イベントへの出展

９月１日、姶良市のイオンタウン姶良において開催された、「姶良市防災フェスタ」イベント会場において、救援物資やパネル展示、救護服試着体験などを行い、来場者に対し赤十字活動についてご理解をいただく取り組みを行った。





イ　社会福祉大会での広報

各市町村社会福祉協議会主催の「社会福祉大会」において、非常食炊き出し、事業紹介パネル等の展示を行い、赤十字活動の周知に努めた。





（３）「私たちは、忘れない。」～防災・減災プロジェクト～　パネル展

３月１日～３１日、日赤会館において、東日本大震災および熊本地震の災害関連写真等を展示し、過去の大規模災害の風化防止や来館者の防災・減災意識の向上と赤十字事業に対する理解促進を図った。

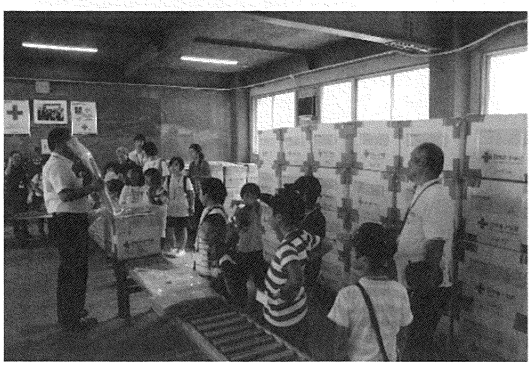




（４）見学誘致・出前講座による広報

地域住民や団体等の研修視察場所として、県支部の災害救援物資備蓄倉庫等を見学いただく誘致活動や出前講座により、日赤県支部の事業内容及び赤十字会費・寄付の使途についての理解促進に努めた。当年度は約７００名に受講いただいた。





（５）刊行物による広報

◆支部発行◆

機関紙「赤十字かごしま」	（年２回）	６５，０００部
赤十字会員増強運動月間用チラシ	（年１回）	３４５，０００部
講習パンフレット	（年１回）	２０，０００部
事業年報	（年１回）	６５０部
事業計画	（年１回）	３００部
各種講習計画	（年１回）	５，０００部
ポスター	（年１回）	２，０００部

◆本社発行◆

赤十字新聞	（月　刊）	２２，２００部
パンフレット	（年１回）	１１，０００部

（６）インターネットによる広報

ホームページを活用して、赤十字事業について広く県民各層に紹介した。

8　赤　十　字　大　会

（1）　全国赤十字大会

５月２２日（水）日本赤十字社名誉総裁皇后陛下及び名誉副総裁各妃殿下のご臨席のもと、東京明治神宮会館で開催され、本県支部からは２６人が出席した。

（2）九州八県赤十字大会

８月３０日（金）に長崎県（長崎市）において開催予定であったが、令和元年８月豪雨災害が発生し、中止となった。

（3）鹿児島県赤十字有功会総会

有功章等受章(彰)者(社)で組織されている鹿児島県赤十字有功会総会は、会員等５２人の参加により、７月２３日（火）にホテルウェルビューかごしまにて開催された。

・総　　会　平成３０年度事業報告、同収支決算説明並びに令和元年度事業計画、同収支予算が提案され、双方ともに原案どおり承認された。
また、役員改選に基づき、新理事として弓場秋信様、坂上省悟様が選出された。

・記念講演　「鹿児島の自然災害と防災情報について」
鹿児島地方気象台
台長　　多　田　英　夫　氏



令和元年全国赤十字大会



有功会総会における会長挨拶（赤塚会長）

9　会員増強運動

赤十字が行う各種事業の財源は、県民からの会費（会費や寄付金）によって支えられており、その増強及び遺贈・相続財産による寄付の普及啓発に努めた。さらに赤十字サポーター（継続的な日赤活動資金の納入に加え、日赤の活動に積極的に協力いただける企業・団体）の募集活動を行った。

また、人道・博愛の赤十字思想の普及と会員の増強を図るため、５月を会員増強運動月間として、県下一斉に展開した。

※継続的な赤十字事業の支援団体「赤十字サポーター」として新たに３社を認定し、平成３０年度に創設した「災害救護赤十字サポーター」として３１社を認定した。

（１）令和元年度会費募集状況及び過去５か年間の推移

区分／年度	目標額（千円）		実績額（円）	達成率（％）
平成27年度	一般会費	238,000	221,744,849	93.2
	法人会費	32,000	19,509,961	61.0
	計	270,000	241,254,810	89.4
平成28年度	一般会費	238,000	205,286,166	86.3
	法人会費	32,000	17,492,682	54.7
	計	270,000	222,778,848	82.5
平成29年度	一般会費	233,000	238,171,445	102.2
	法人会費	32,000	19,032,150	59.5
	計	265,000	257,203,595	97.1
平成30年度	一般会費	233,000	196,675,659	84.4
	法人会費	32,000	17,608,507	55.0
	計	265,000	214,284,166	80.9
令和元年度	一般会費	228,000	186,508,131	81.8
	法人会費	32,000	18,445,979	57.6
	計	260,000	204,954,110	78.8

（２）令和元年度　地区・分区別社資納入状況一覧表（対社資目標額比較）

地区・分区	社資目標額(円)	納入額(円)	達成率(%)
鹿児島市	93,037,500	46,866,365	50.4%
鹿児島地域	86,582,000	41,378,380	47.8%
吉田地域	1,459,000	1,360,275	93.2%
桜島地域	492,500	640,200	130.0%
松元地域	1,996,000	1,085,200	54.4%
郡山地域	984,500	830,400	84.3%
喜入地域	1,523,500	1,571,910	103.2%
鹿屋市	15,230,000	9,405,373	61.8%
鹿屋地域	12,077,500	5,938,872	49.2%
輝北支所	489,500	650,500	132.9%
串良支所	1,754,500	1,582,501	90.2%
吾平支所	908,500	1,233,500	135.8%
枕崎市	3,255,000	3,281,900	100.8%
阿久根市	2,973,000	3,163,105	106.4%
出水市	7,601,000	6,845,153	90.1%
出水地域	5,283,500	4,039,552	76.5%
野田支所	577,000	997,000	172.8%
高尾野支所	1,740,500	1,808,601	103.9%
指宿市	6,022,000	6,679,469	110.9%
指宿地域	3,937,500	3,992,719	101.4%
山川支所	1,295,500	1,705,100	131.6%
開聞支所	789,000	981,650	124.4%
西之表市	2,414,500	1,645,097	68.1%
垂水市	2,247,000	2,730,000	121.5%
薩摩川内市	13,695,500	14,396,806	105.1%
川内分区	10,061,500	10,138,306	100.8%
樋脇分区	956,500	966,500	101.0%
入来分区	706,000	808,500	114.5%
東郷分区	696,000	952,000	136.8%
祁答院分区	492,000	604,500	122.9%
上甑分区	386,000	533,100	138.1%
下甑分区	397,500	393,900	99.1%
日置市	6,517,000	7,733,337	118.7%
東市来分区	1,540,500	1,969,976	127.9%
伊集院分区	3,151,000	3,458,360	109.8%
日吉分区	666,000	911,500	136.9%
吹上分区	1,159,500	1,393,501	120.2%
曽於市	5,117,500	5,639,004	110.2%
大隅分区	1,488,000	1,610,001	108.2%
財部分区	1,197,000	1,479,001	123.6%
末吉分区	2,432,500	2,550,002	104.8%
霧島市	18,398,000	14,144,260	76.9%
国分地域	8,389,500	5,987,857	71.4%
隼人分室	5,540,500	3,505,902	63.3%
溝辺分室	1,163,000	1,241,501	106.7%
横川分室	641,000	730,500	114.0%
牧園分室	1,126,000	1,138,000	101.1%
霧島分室	729,500	624,500	85.6%
福山分室	808,500	916,000	113.3%
いちき串木野市	4,027,000	4,525,900	112.4%
南さつま市	4,946,000	6,639,310	134.2%
加世田地域	2,985,000	3,822,009	128.0%
笠沙支所	377,500	610,900	161.8%
大浦支所	290,500	456,000	157.0%
坊津支所	440,500	571,000	129.6%
金峰支所	852,500	1,179,401	138.3%
志布志市	4,609,000	4,268,025	92.6%
志布志地域	2,547,000	1,991,401	78.2%
松山支所	564,000	709,000	125.7%
有明支所	1,498,000	1,567,624	104.6%
奄美市	6,612,000	3,767,041	57.0%
名瀬地域	5,795,000	2,734,341	47.2%
笠利分区	817,000	1,032,700	126.4%
南九州市	5,038,500	6,187,801	122.8%
頴娃分区	1,664,500	2,064,300	124.0%
知覧分区	1,607,000	1,851,001	115.2%
川辺分区	1,767,000	2,272,500	128.6%

地区・分区	社資目標額(円)	納入額(円)	達成率(%)
伊佐市	4,006,500	4,544,503	113.4%
大口分区	2,851,000	3,390,002	118.9%
菱刈地域	1,155,500	1,154,501	99.9%
姶良市	10,924,500	6,960,450	63.7%
姶良地域	6,812,500	3,119,744	45.8%
加治木支所	3,203,500	2,709,204	84.6%
蒲生支所	908,500	1,131,502	124.5%
小計	216,671,500	159,422,899	73.6%
三島村	62,000	67,770	109.3%
十島村	143,500	189,204	131.8%
小計	205,500	256,974	125.0%
さつま町	3,147,000	3,764,804	119.6%
小計	3,147,000	3,764,804	119.6%
長島町	1,403,000	1,656,502	118.1%
小計	1,403,000	1,656,502	118.1%
湧水町	1,409,000	1,629,501	115.6%
小計	1,409,000	1,629,501	115.6%
大崎町	1,984,000	1,856,001	93.5%
小計	1,984,000	1,856,001	93.5%
東串良町	904,000	1,112,343	123.0%
錦江町	1,076,500	1,459,000	135.5%
南大隅町	1,117,500	1,413,500	126.5%
肝付町	2,238,000	2,940,842	131.4%
小計	5,336,000	6,925,685	129.8%
中種子町	1,207,000	1,292,500	107.1%
南種子町	900,000	619,200	68.8%
屋久島町	2,019,000	2,296,090	113.7%
小計	4,126,000	4,207,790	102.0%
大和村	233,500	249,500	106.9%
宇検村	278,000	422,800	152.1%
瀬戸内町	1,404,000	829,464	59.1%
龍郷町	842,500	876,525	104.0%
喜界町	1,069,500	1,251,600	117.0%
徳之島町	1,589,500	2,172,647	136.7%
天城町	843,500	1,112,900	131.9%
伊仙町	906,500	663,310	73.2%
和泊町	958,000	982,300	102.5%
知名町	860,000	1,054,500	122.6%
与論町	733,000	808,617	110.3%
小計	9,718,000	10,424,163	107.3%
市地区計	216,671,500	159,422,899	73.6%
郡地区計	27,328,500	30,721,420	112.4%
市郡地区計	244,000,000	190,144,319	77.9%

支部	14,798,629
地区DM	9,082,275
地区送納書	178,852,806
本社	2,220,400
合計	204,954,110

（３）令和元年度　地区・分区別社資納入状況一覧表（対前年度比較）

地区・分区	令和元年度（円）	平成30年度（円）	対前年（%）
鹿児島市	46,866,365	51,099,895	91.7%
鹿児島地域	41,378,380	45,710,445	90.5%
吉田地域	1,360,275	1,115,900	121.9%
桜島地域	640,200	642,200	99.7%
松元地域	1,085,200	1,119,500	96.9%
郡山地域	830,400	901,750	92.1%
喜入地域	1,571,910	1,610,100	97.6%
鹿屋市	9,405,373	10,070,946	93.4%
鹿屋地域	5,938,872	6,619,446	89.7%
輝北支所	650,500	595,500	109.2%
串良支所	1,582,501	1,612,500	98.1%
吾平支所	1,233,500	1,243,500	99.2%
枕崎市	3,281,900	3,277,000	100.1%
阿久根市	3,163,105	3,254,257	97.2%
出水市	6,845,153	7,267,813	94.2%
出水地域	4,039,552	4,437,812	91.0%
野田支所	997,000	1,020,000	97.7%
高尾野支所	1,808,601	1,810,001	99.9%
指宿市	6,679,469	6,451,350	103.5%
指宿地域	3,992,719	3,827,850	104.3%
山川支所	1,705,100	1,620,000	105.3%
開聞支所	981,650	1,003,500	97.8%
西之表市	1,645,097	1,688,622	97.4%
垂水市	2,730,000	2,663,110	102.5%
薩摩川内市	14,396,806	14,844,298	97.0%
川内分区	10,138,306	10,475,260	96.8%
樋脇分区	966,500	1,001,500	96.5%
入来分区	808,500	840,558	96.2%
東郷分区	952,000	940,000	101.3%
祁答院分区	604,500	626,330	96.5%
上甑分区	533,100	533,750	99.9%
下甑分区	393,900	426,900	92.3%
日置市	7,733,337	7,781,315	99.4%
東市来分区	1,969,976	1,983,925	99.3%
伊集院分区	3,458,360	3,458,390	100.0%
日吉分区	911,500	925,500	98.5%
吹上分区	1,393,501	1,413,500	98.6%
曽於市	5,639,004	5,787,144	97.4%
大隅分区	1,610,001	1,663,501	96.8%
財部分区	1,479,001	1,518,001	97.4%
末吉分区	2,550,002	2,605,642	97.9%
霧島市	14,144,260	14,743,873	95.9%
国分地域	5,987,857	5,891,174	101.6%
隼人分室	3,505,902	3,503,697	100.1%
溝辺分室	1,241,501	1,350,501	91.9%
横川分室	730,500	703,500	103.8%
牧園分室	1,138,000	1,209,001	94.1%
霧島分室	624,500	1,122,000	55.7%
福山分室	916,000	964,000	95.0%
いちき串木野市	4,525,900	4,711,500	96.1%
南さつま市	6,639,310	6,833,996	97.2%
加世田地域	3,822,009	3,931,095	97.2%
笠沙支所	610,900	649,400	94.1%
大浦支所	456,000	453,000	100.7%
坊津支所	571,000	591,500	96.5%
金峰支所	1,179,401	1,209,001	97.6%
志布志市	4,268,025	4,308,002	99.1%
志布志地域	1,991,401	1,974,201	100.9%
松山支所	709,000	745,500	95.1%
有明支所	1,567,624	1,588,301	98.7%
奄美市	3,767,041	2,358,927	159.7%
名瀬地域	2,734,341	1,254,427	218.0%
笠利分区	1,032,700	1,104,500	93.5%
南九州市	6,187,801	6,437,902	96.1%
頴娃分区	2,064,300	2,181,400	94.6%
知覧分区	1,851,001	1,971,002	93.9%
川辺分区	2,272,500	2,285,500	99.4%

地区・分区	令和元年度（円）	平成30年度（円）	対前年（%）
伊佐市	4,544,503	4,634,251	98.1%
大口分区	3,390,002	3,400,750	99.7%
菱刈地域	1,154,501	1,233,501	93.6%
姶良市	6,960,450	6,864,590	101.4%
姶良地域	3,119,744	3,323,840	93.9%
加治木支所	2,709,204	2,432,650	111.4%
蒲生支所	1,131,502	1,108,100	102.1%
小計	159,422,899	165,078,791	96.6%
三島村	67,770	84,700	80.0%
十島村	189,204	135,300	139.8%
小計	256,974	220,000	116.8%
さつま町	3,764,804	3,795,004	99.2%
小計	3,764,804	3,795,004	99.2%
長島町	1,656,502	1,684,000	98.4%
小計	1,656,502	1,684,000	98.4%
湧水町	1,629,501	1,666,501	97.8%
小計	1,629,501	1,666,501	97.8%
大崎町	1,856,001	1,923,001	96.5%
小計	1,856,001	1,923,001	96.5%
東串良町	1,112,343	1,141,604	97.4%
錦江町	1,459,000	1,497,500	97.4%
南大隅町	1,413,500	1,528,000	92.5%
肝付町	2,940,842	2,788,059	105.5%
小計	6,925,685	6,955,163	99.6%
中種子町	1,292,500	1,330,000	97.2%
南種子町	619,200	587,000	105.5%
屋久島町	2,296,090	1,963,420	116.9%
小計	4,207,790	3,880,420	108.4%
大和村	249,500	267,000	93.4%
宇検村	422,800	424,400	99.6%
瀬戸内町	829,464	772,820	107.3%
龍郷町	876,525	914,050	95.9%
喜界町	1,251,600	1,170,000	107.0%
徳之島町	2,172,647	2,152,198	101.0%
天城町	1,112,900	1,141,450	97.5%
伊仙町	663,310	720,270	92.1%
和泊町	982,300	993,600	98.9%
知名町	1,054,500	1,051,300	100.3%
与論町	808,617	799,801	101.1%
小計	10,424,163	10,406,889	100.2%
市地区計	159,422,899	165,078,791	96.6%
郡地区計	30,721,420	30,530,978	100.6%
市郡地区計	190,144,319	195,609,769	97.2%
支部	14,798,629	18,647,397	79.4%
地区DM	9,082,275	9,574,229	94.9%
地区送納書	178,852,806	184,165,320	97.1%
本社	2,220,400	1,897,220	117.0%
合計	204,954,110	214,284,166	95.6%

（４）令和元年度地区・分区別会員募集実績前年対比一覧表

	種類別内訳						令和元年度件数	平成30年度件数	増減
	個人					法人			
	500円以上1,000円未満	1,000円以上2,000円未満	2,000円以上10,000円未満	10,000円以上	計 A	B	A+B=C	D	C-D
鹿児島市	55,384	369	105	98	55,956	92	56,048	60,369	-4,321
鹿児島地域	48,523	349	99	95	49,066	89	49,155	52,436	-3,281
吉田地域	1,036	5	1	1	1,043	1	1,044	1,259	-215
桜島地域	1,263	0	2	0	1,265	0	1,265	1,273	-8
松元地域	1,266	0	1	0	1,267	0	1,267	1,437	-170
郡山地域	1,337	6	1	0	1,344	1	1,345	1,517	-172
喜入地域	1,959	9	1	2	1,971	1	1,972	2,447	-475
鹿屋市	15,513	249	59	12	15,833	79	15,912	16,496	-584
鹿屋地域	9,894	232	59	10	10,195	73	10,268	10,692	-424
輝北支所	1,159	16	0	1	1,176	1	1,177	1,176	1
串良支所	3,133	1	0	0	3,134	2	3,136	3,217	-81
吾平支所	1,327	0	0	1	1,328	3	1,331	1,411	-80
枕崎市	5,787	63	2	2	5,854	25	5,879	6,050	-171
阿久根市	6,052	0	8	2	6,062	9	6,071	6,248	-177
出水市	11,484	323	13	15	11,835	38	11,873	12,135	-262
出水地域	6,889	208	10	10	7,117	25	7,142	7,368	-226
野田支所	1,270	107	3	2	1,382	6	1,388	1,398	-10
高尾野支所	3,325	8	0	3	3,336	7	3,343	3,369	-26
指宿市	11,093	323	19	9	11,444	22	11,466	11,609	-143
指宿地域	6,312	139	18	8	6,477	21	6,498	6,583	-85
山川支所	2,818	184	1	1	3,004	1	3,005	3,019	-14
開聞支所	1,963	0	0	0	1,963	0	1,963	2,007	-44
西之表市	2,857	39	4	1	2,901	8	2,909	2,905	4
垂水市	5,239	0	1	1	5,241	9	5,250	5,208	42
薩摩川内市	26,016	116	18	17	26,167	54	26,221	26,244	-23
川内分区	18,053	7	15	10	18,085	51	18,136	18,117	19
樋脇分区	1,624	43	1	4	1,672	0	1,672	1,717	-45
入来分区	1,571	14	2	0	1,587	1	1,588	1,621	-33
東郷分区	1,770	34	0	3	1,807	1	1,808	1,825	-17
祁答院分区	1,187	1	0	0	1,188	1	1,189	1,209	-20
上甑分区	1,038	10	0	0	1,048	0	1,048	912	136
下甑分区	773	7	0	0	780	0	780	843	-63
日置市	14,949	104	23	2	15,078	0	15,078	15,159	-81
東市来分区	3,908	0	1	1	3,910	0	3,910	3,920	-10
伊集院分区	6,547	84	17	0	6,648	0	6,648	6,649	-1
日吉分区	1,753	15	0	1	1,769	0	1,769	1,794	-25
吹上分区	2,741	5	5	0	2,751	0	2,751	2,796	-45
曽於市	10,442	137	18	6	10,603	13	10,616	10,562	54
大隅分区	3,070	42	1	0	3,113	4	3,117	2,932	185
財部分区	2,800	1	2	0	2,803	6	2,809	2,839	-30
末吉分区	4,572	94	15	6	4,687	3	4,690	4,791	-101
霧島市	24,947	219	33	9	25,208	56	25,264	25,569	-305
国分地域	10,010	87	16	4	10,117	28	10,145	10,141	4
隼人分室	6,222	53	14	4	6,293	15	6,308	6,390	-82
溝辺分室	2,283	0	0	1	2,284	6	2,290	2,271	19
横川分室	1,417	11	0	0	1,428	2	1,430	1,394	36
牧園分室	2,002	64	2	0	2,068	2	2,070	2,316	-246
霧島分室	1,221	4	0	0	1,225	1	1,226	1,217	9
福山分室	1,792	0	1	0	1,793	2	1,795	1,840	-45
いちき串木野市	7,868	547	4	2	8,421	0	8,421	8,672	-251
南さつま市	8,866	1,802	20	3	10,691	51	10,742	11,192	-450
加世田地域	4,184	1,432	4	3	5,623	43	5,666	5,922	-256
笠沙支所	606	249	15	0	870	1	871	991	-120
大浦支所	760	66	0	0	826	1	827	831	-4
坊津支所	1,058	42	0	0	1,100	0	1,100	1,110	-10
金峰支所	2,258	13	1	0	2,272	6	2,278	2,338	-60
志布志市	7,122	40	11	7	7,180	54	7,234	7,366	-132
志布志地域	3,600	12	4	4	3,620	16	3,636	3,626	10
松山支所	1,176	20	3	0	1,199	13	1,212	1,287	-75
有明支所	2,346	8	4	3	2,361	25	2,386	2,453	-67
奄美市	3,056	50	38	2	3,146	102	3,248	3,195	53
名瀬地域	1,332	46	38	1	1,417	99	1,516	1,324	192
笠利分区	1,724	4	0	1	1,729	3	1,732	1,871	-139

（４）令和元年度地区・分区別会員募集実績前年対比一覧表

	種類別内訳						令和元年度	平成30年度	増減
	個人					法人	件数	件数	
	500円以上 1,000円未満	1,000円以上 2,000円未満	2,000円以上 10,000円未満	10,000円 以上	計 A	B	A+B=C	D	C-D
南九州市	8,504	1,106	8	1	9,619	4	9,623	9,975	-352
頴娃分区	*633*	*1,053*	*7*	*0*	*1,693*	*0*	*1,693*	*1,848*	*-155*
知覧分区	*3,448*	*4*	*0*	*1*	*3,453*	*3*	*3,456*	*3,608*	*-152*
川辺分区	*4,423*	*49*	*1*	*0*	*4,473*	*1*	*4,474*	*4,519*	*-45*	
伊佐市	7,713	203	8	5	7,929	12	7,941	8,064	-123
大口分区	*5,620*	*119*	*4*	*5*	*5,748*	*12*	*5,760*	*5,723*	*37*
菱刈地域	*2,093*	*84*	*4*	*0*	*2,181*	*0*	*2,181*	*2,341*	*-160*
姶良市	9,994	696	23	7	10,720	25	10,745	10,397	348
姶良地域	*3,630*	*534*	*14*	*4*	*4,182*	*19*	*4,201*	*4,475*	*-274*
加治木支所	*4,171*	*159*	*9*	*3*	*4,342*	*6*	*4,348*	*3,750*	*598*
蒲生支所	*2,193*	*3*	*0*	*0*	*2,196*	*0*	*2,196*	*2,172*	*24*
小計	242,886	6,386	415	201	249,888	653	250,541	257,415	-6,874
三島村	37	38	1	0	76	2	78	169	-91
十島村	14	75	8	6	103	4	107	123	-16
小計	51	113	9	6	179	6	185	292	-107
さつま町	6,909	149	6	0	7,064	7	7,071	6,992	79
小計	6,909	149	6	0	7,064	7	7,071	6,992	79
長島町	2,933	0	0	2	2,935	2	2,937	2,893	44
小計	2,933	0	0	2	2,935	2	2,937	2,893	44
湧水町	3,259	0	0	0	3,259	0	3,259	3,332	-73
小計	3,259	0	0	0	3,259	0	3,259	3,332	-73
大崎町	3,080	306	0	1	3,387	0	3,387	3,498	-111
小計	3,080	306	0	1	3,387	0	3,387	3,498	-111
東串良町	1,871	8	0	0	1,879	18	1,897	1,958	-61
錦江町	2,918	0	0	0	2,918	0	2,918	2,995	-77
南大隅町	2,827	0	0	0	2,827	0	2,827	3,055	-228
肝付町	4,860	79	2	2	4,943	13	4,956	5,109	-153
小計	12,476	87	2	2	12,567	31	12,598	13,117	-519
中種子町	2,385	0	0	0	2,385	6	2,391	2,445	-54
南種子町	1,021	10	0	3	1,034	2	1,036	1,092	-56
屋久島町	4,380	71	7	0	4,458	0	4,458	3,805	653
小計	7,786	81	7	3	7,877	8	7,885	7,342	543
大和村	499	0	0	0	499	0	499	534	-35
宇検村	682	57	1	2	742	0	742	741	1
瀬戸内町	1,411	35	1	1	1,448	10	1,458	1,439	19
龍郷町	1,675	2	1	0	1,678	4	1,682	1,822	-140
喜界町	2,235	1	0	0	2,236	14	2,250	2,269	-19
徳之島町	2,385	49	4	4	2,442	50	2,492	2,433	59
天城町	1,563	1	2	0	1,566	50	1,616	1,698	-82
伊仙町	1,134	51	0	0	1,185	0	1,185	1,294	-109
和泊町	1,795	45	5	0	1,845	0	1,845	1,875	-30
知名町	2,083	11	0	0	2,094	0	2,094	2,074	20
与論町	1,593	5	0	0	1,598	1	1,599	1,588	11
小計	17,055	257	14	7	17,333	129	17,462	17,767	-305
市地区計	242,886	6,386	415	201	249,888	653	250,541	257,415	-6,874
郡地区計	53,549	993	38	21	54,601	183	54,784	55,233	-449
地区分区計	296,435	7,379	453	222	304,489	836	305,325	312,648	-7,323
支部	47	56	299	118	520	531	1,051	1,019	32
合計	296,482	7,435	752	340	305,009	1,367	306,376	313,667	-7,291

（５）令和元年度赤十字会員増強運動功労表彰

１２月末までに会費募集目標額を達成し、さらに次の基準を満たす地区・分区・支所等を支部長名で表彰する。

１　会員募集表彰基準

（ア）個人会費（５００円以上１０,０００円未満）募集目標件数を達成し、さらに1,０００円以上１０,０００円未満会員目標件数を１１０％以上達成した地区・分区・支所等

管　内	地区・分区名	件数
市地区	出水市地区（野田支所）、指宿市地区（山川支所）	6
	いちき串木野市地区	
	南さつま市地区(加世田地域・笠沙支所・大浦支所)	
大隅地区	大崎町分区	1
大島地区	宇検村分区	1
合　計		8

（イ）個人会員（１０,０００円以上）件数及び法人会費目標件数を達成した地区・分区・支所等

管　内	地区・分区名	件数
市地区	出水市地区（野田支所）	1(1)
合　計		1(1)

（ウ）その他特に会員募集に顕著な功績があった地区・分区・支所等

※総会員目標件数を１１０％以上達成しさらに法人会員目標件数を達成した地区分区

管　内	地区・分区名	件数
市地区	出水市地区（野田支所）、薩摩川内市地区（祁答院分区）	7(3)
	曽於市地区（財部分区）	
	南さつま市地区（笠沙支所・大浦支所・金峰支所）	
	志布志市地区（松山支所）	
大隅地区	東串良町分区、肝付町分区	2
熊毛地区	中種子町分区	1
大島地区	龍郷町分区・喜界町分区	2
合　計		１２(3)

2　会費募集表彰基準

（ア）当年度会費等実績額が前年度実績の１０２％以上を達成した地区・分区・支所等

管　　内	地　区・分　区　名	件　数
鹿児島地区	十島村分区	1
大　島　地　区	奄美市地区、瀬戸内町分区、喜界町分区	3（1）
合　　計		4（1）

（イ）その他特に会費等募集に顕著な功績があった地区・分区・支所等

※会費目標額を１２５％以上達成した地区分区

管　　内	地　区・分　区　名	件　数
市　地　区	鹿屋市地区（吾平支所）、出水市地区（野田支所）	１２(5)
	薩摩川内市地区（東郷分区、上甑分区）	
	日置市地区（日吉分区・東市来分区）	
	南さつま市地区(笠沙支所・大浦支所・坊津支所・金峰支所)	
	志布志市地区（松山支所）、南九州市地区（川辺分区）	
鹿児島地区	十島村分区	1(1)
大　隅　地　区	錦江町分区	1
大　島　地　区	宇検村分区、徳之島町分区、天城町分区	3(1)
合　　計		１７(7)

件数欄の（　　）内は、再掲。

（６）過去５か年間の種別会員（社員）数の推移

種別＼年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		件数	増減	件数	増減	件数	増減	件数	増減	件数	増減
個人	500円以上1,000円未満	328,837	△ 8,911	323,788	△ 5,049	315,368	△ 8,420	303,246	△ 12,122	296,482	△ 6,764
	1,000円以上	11,291	△ 522	10,726	△ 565	9,793	△ 933	9,078	△ 715	8,527	△ 551
	小計	340,128	△ 9,433	334,514	△ 5,614	325,161	△ 9,353	312,324	△ 12,837	305,009	△ 7,315
法人		1,288	59	1,451	163	1,333	△ 118	1,346	13	1,367	21
合計		341,416	△ 9,374	335,965	△ 5,451	326,494	△ 9,471	313,670	△ 12,824	306,376	△ 7,294

（７）令和元年度一般社資金額別内訳一覧表

1件あたり金額＼内訳		一般社資		個人住民税に関する指定事業社資		合計	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
1	100万円以上	0	0	0	0	0	0
2	50万円以上100万円未満	2	1,000,000	1	500,000	3	1,500,000
3	20万円以上50万円未満	9	2,173,000	0	0	9	2,173,000
4	10万円以上20万円未満	22	2,230,000	4	400,000	26	2,630,000
5	5万円以上10万円未満	23	1,252,420	0	0	23	1,252,420
6	3万円以上5万円未満	23	690,000	0	0	23	690,000
7	1万円以上3万円未満	256	2,919,240	0	0	256	2,919,240
8	5千円以上1万円未満	185	1,070,320	0	0	185	1,070,320
9	1千円以上5千円未満	8,002	8,762,337	0	0	8,002	8,762,337
10	500円以上1千円未満	296,482	148,377,830	0	0	296,482	148,377,830
11	500円未満	79,120	17,132,984	0	0	79,120	17,132,984
社資合計		384,124	185,608,131	5	900,000	384,129	186,508,131

（８）令和元年度法人社資金額別内訳一覧表

1件あたり金額＼内訳		指定事業社資		その他法人社資		合計	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
1	100万円以上	0	0	0	0	0	0
2	50万円以上100万円未満	1	500,000	3	1,750,000	4	2,250,000
3	20万円以上50万円未満	2	500,000	2	500,000	4	1,000,000
4	10万円以上20万円未満	7	700,000	20	2,138,494	27	2,838,494
5	5万円以上10万円未満	1	90,000	33	1,682,384	34	1,772,384
6	2万円以上5万円未満	0	0	95	2,439,308	95	2,439,308
7	1万円以上2万円未満	1	10,000	558	5,667,218	559	5,677,218
8	5千円以上1万円未満	0	0	351	1,824,931	351	1,824,931
9	1千円以上5千円未満	0	0	276	635,477	276	635,477
10	500円以上1千円未満	0	0	10	6,558	10	6,558
11	500円未満	0	0	7	1,609	7	1,609
合計		12	1,800,000	1,355	16,645,979	1,367	18,445,979

（９）日本赤十字社有功章等表彰受彰（章）者（社）名簿（敬称略）　※順不同

◎日本赤十字社の表彰（章）

日本赤十字社感謝状　８件

・柳田　玉留（鹿児島市）
・木佐貫　ケイ子（鹿児島市）
・中村　隆重（肝属郡南大隅町）
・神村　サヨ子（鹿児島市）
・弓場　秋信（鹿児島市）
・鹿児島空港ビルディング　株式会社（霧島市）
・株式会社　倉岡建設（鹿屋市）
・社会福祉法人　鹿児島市社会事業協会　役職員一同（鹿児島市）

金色有功章　７件　（不掲載希望者　２件を含む）

・肥後　忍（鹿児島市）
・株式会社　宮永企業（鹿児島市）
・医療法人　玉昌会　高田病院（鹿児島市）
・株式会社　徳山建設（大島郡天城町）
・株式会社　霧島エッグ（霧島市）

銀色有功章　１３件　（不掲載希望者　１件を含む）

・山﨑　隆雄（出水市）
・前田　芳夫（鹿児島市）
・鵜狩　ヨリ子（鹿児島市）
・前野　美和子（鹿児島市）
・松崎　雄一郎（鹿児島市）
・医療法人　松城会（霧島市）
・株式会社　豊留建設（枕崎市）
・株式会社　鹿越（薩摩川内市）
・医療法人　協愛会　協愛病院（霧島市）
・医療法人　全隆会　指宿竹元病院（指宿市）
・大迫医院（鹿児島市）
・浜田クリニック（鹿児島市）

10　医　療　事　業



鹿児島赤十字病院は、公的病院として地域医療の進展に貢献していくため、一般病床１２０床をベースに災害時の医療救護、離島・へき地医療への取り組みはもとより、リウマチ・膠原病、関節・脊椎整形外科、脳神経外科領域を主とする救急医療など、各診療科領域において特色ある専門的かつ高度な医療の適切な提供に取り組み、その使命と役割を果たしている。

これらの医療活動を円滑に展開していくため、医師・看護師等人材の確保や医療機器・設備の改善とともに地域医療連携の一層の推進等を図りつつ、平均在院日数の短縮、病床稼働率の改善・向上など引き続き経営収支の改善と安定化に取り組むこととともに、医療サービスの質的向上・効率的提供や患者サービスの向上に努めた。

（１）一 般 医 療

ア　診療科目　　９診療科
〔内科・リウマチ科・循環器内科・呼吸器内科・整形外科・
脳神経外科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科〕

イ　診療日　月曜日～金曜日（緊急時はこの限りではありません）

ウ　診療実績

①入院患者数

鹿児島赤十字病院は、昭和５５年以降、結核病床主体から一般病床へのシフト化とともに、特定疾患としてリウマチ膠原病や骨粗しょう症、生活習慣病対策に取り組み、更に、関節・脊推を主体とする整形外科を導入するなど予防・診断・治療からリハビリテーションまでの包括的医療体制を整備してきた結果、一般患者の診療圏が県内全域に及ぶようになった。

更に、平成１５年７月に脳神経外科、平成１６年３月には麻酔科、平成２５年１月には循環器内科を設置し、救急の受入れや手術への対応など診療活動の拡充に努めている。

なお、平成３０年度から鹿児島大学からの循環器内科医師派遣体制が非常勤医師のみとなり、入院患者延数は３５，４５１人で、前年度より５０４人少ない１．４％減となった。

〔診療科別入院患者数〕　　（単位：人）

区　分	令和元年度				平成 30 年度				比較 (R1-H30)		
種　別	在院延数	退院	患者延数[在院+退院]	1 日平均患者数	在院延数	退院	患者延数[在院+退院]	1 日平均患者数	在院延数	患者延数[在院+退院]	1 日平均患者数
内　科	1,999	116	2,115	5.8	3,715	217	3,932	10.8	△1,716	△1,817	△5.0
リウマチ科	13,421	1,121	14,542	39.7	11,438	1,076	12,514	34.3	1,983	2,028	5.4
整形外科	14,092	698	14,790	40.4	14,561	622	15,183	41.6	△469	△393	△1.2
脳神経外科	3,770	234	4,004	10.9	4,120	206	4,326	11.9	△350	△322	△1.0
合　計	**33,282**	**2,169**	**35,451**	**96.9**	**33,834**	**2,121**	**35,955**	**98.5**	**△552**	**△504**	**△1.6**
			病床稼働率	80.7%			病床稼働率	82.1%		病床稼働率	△1.4%

②外来患者数

外来患者数は、病院の立地条件等により、入院患者延数に比し少ない傾向を示しているが、令和元年度の患者数は、３４，９１６人で、前年度より１，２０４人多い３．６％増となった。

〔診療科別外来患者数〕　(単位：人)

区　分	令和元年度	平成30年度	比較(R1-H30)	
			増減(人)	前年比(%)
内　　科	5,606	5,918	△312	94.7
リウマチ科	14,547	12,643	1,904	115.1
整形外科	9,928	9,754	174	101.8
呼吸器内科	435	439	△4	99.1
脳神経外科	3,376	3,536	△160	95.5
循環器内科	1,024	1,422	△398	72.0
合　計	**34,916**	**33,712**	**1,204**	**103.6**

【参考】市町村別入院・外来患者数　(単位：人)

市町村	患者数		市町村	患者数		市町村	患者数	
	入院	外来		入院	外来		入院	外来
鹿児島市	15,654	20,347	奄美市	0	22	南種子町	191	24
鹿屋市	970	504	南九州市	3,473	2,947	屋久島町	111	75
枕崎市	927	1,191	伊佐市	119	78	大和村	0	1
阿久根市	98	125	姶良市	1,221	304	宇検村	0	0
出水市	254	172	三島村	47	3	瀬戸内町	16	20
指宿市	3,242	4,112	十島村	147	41	龍郷町	49	3
西之表市	386	86	さつま町	134	94	喜界町	42	3
垂水市	271	192	長島町	30	51	徳之島町	0	21
薩摩川内市	789	586	湧水町	44	29	天城町	0	8
日置市	858	821	大崎町	65	62	伊仙町	111	15
曽於市	136	59	東串良町	21	24	和泊町	41	15
霧島市	679	237	錦江町	43	17	知名町	109	7
いちき串木野市	476	328	南大隅町	184	40	与論町	81	4
南さつま市	1,493	1,670	肝付町	38	74	県　外	468	341
志布志市	212	74	中種子町	52	89	計	33,282	34,916

※入院患者数は在院延数で記載

③実習生受け入れ状況

受入担当部	期間	実習生数	実習項目	実習依頼校
整形外科部	第2・4週目の水曜日	5名	ポリクリ実習	鹿大医学部5年・6年生
リハビリテーション科部	5/7～6/28	2名	理学療法(4年)	鹿児島大学医学部保健学科
	8/26～10/4	2名	作業療法(4年)	鹿児島大学医学部保健学科
	2/25～2/27	2名	理学療法見学(1年)	鹿児島大学医学部保健学科
看護部	6/3～6/27	9名	成人・老年看護学実習Ⅱ	鹿児島医療技術専門学校4年
	9/2～9/27	10名	統合実習	鹿児島医療技術専門学校4年
	11/18～12/12	5名	成人・老年看護学実習Ⅰ	鹿児島医療技術専門学校3年
	1/27～2/21	5名	成人・老年看護学実習Ⅰ	鹿児島医療技術専門学校3年
	2/25～3/19	9名	看護過程実習	鹿児島医療技術専門学校2年
	5/27～6/21	4名	基礎看護実習	希望が丘学園 鳳凰高等学校基礎課程2年
	10/15～10/25	4名	統合実習	希望が丘学園 鳳凰高等学校専門課程2年
	6/24～7/11	4名	基礎看護学実習Ⅱ	医療法人協会立看護専門学校2年
	9/30～10/17	5名	成人看護学実習Ⅱ	医療法人協会立看護専門学校3年
医療社会事業部	9/12	9名	ソーシャルワーク実習入門(社会福祉入門Ⅱ)	鹿児島国際大学
	2/3～5	1名	介護支援専門員実務実習	鹿児島県社会福祉協議会

（2）医療救護活動

赤十字病院の特徴として、台風や地震などの災害、事故などへの災害救護活動を使命としていることである。災害発生度の高い本県の気象条件、地理的特徴に鑑み、災害時に医師・看護師等を速やかに派遣し、その機能が十分発揮できるよう、常備救護班の整備や災害救護訓練に積極的に参加するなど、緊急時に備えるとともに、発災時においては積極的な医療救護班の派遣に努めている。平成21年度鹿児島県DMAT指定病院に指定。

ア　医療救護活動

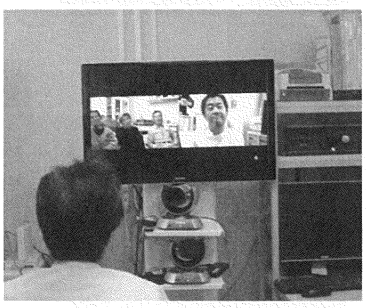
期日	日数	場所	内容	派遣職員
8月5日～7日	3	霧島市牧園町	青少年赤十字トレセン（小学校）救護	中止
8月5日～7日	3	霧島市牧園町	青少年赤十字トレセン（中学校）救護	中止
8月8日～10日	3	霧島市牧園町	青少年赤十字トレセン（高等学校）救護	1名（看護師）
8月19日～21日	3	十島村悪石島	十島村悪石島ボゼ祭り救護	1名（医師）
8月24日	1	鹿児島港本港区	錦江湾サマーナイト大花火大会救護	5名（医師1、看護師3、主事1）
10月4日～6日	3	十島村宝島	トカラマラソン救護	1名（医師1）
3月1日	1	鹿児島市	かごしまマラソン2020救護	中止

イ　災害救護訓練・研修

期日	日数	場所	内容	派遣職員
5月19日	1	姶良市	県総合防災訓練	中止
6月14日	1	日赤県支部	こころのケア研修会	10名（医師0、看護師6、主事4)、講師2
6月15日～16日	2	福岡県	ＤＭＡＴ技能維持研修	1名(医師1)
7月13日～15日	3	当院	院内救急法基礎・救急員養成講習会（1回目）	11名(当院5、他機関6)
7月14日～16日	3	本社	全国救護班研修会	3名(看護師2、ｽﾀｯﾌ1))
8月10日～13日	3	当院	院内救急法基礎・救急員養成講習会（2回目）	16名(当院5、他機関11)
9月9日	1	鹿児島市	鹿児島市多数傷病者事故対応訓練	6名（医師1、看護師3、主事2）
9月14日～15日	2	日赤本社	日赤災害医療コーディネーター研修(1回目)	2名（看護師1、主事1）
9月21日	1	日赤県支部	救護員基礎研修（2日間）	15名（医師0、看護師5、主事6、ｽﾀｯﾌ6）
10月10日	1	霧島市	航空機事故消火救難総合訓練	6名（医師1、看護師3、主事2）
10月12日	1	日赤県支部	救護員フォローアップ研修	11名（看護師6、ｽﾀｯﾌ5）
10月12日	1	日赤県支部	救護員基礎研修（2日間）	15名（医師0、看護師5、主事6、ｽﾀｯﾌ6）
11月7日	1	鹿児島県庁	桜島火山爆発総合防災訓練(図上訓練)	5名（主事1）
11月22日～24日	3	沖縄県	九州ブロック支部合同災害救護訓練	4名（医師1、看護師2、主事1）
12月7日～8日	2	日赤本社	日赤災害医療コーディネーター研修(2回目)	1名（医師1）
1月11日	1	鹿児島市	桜島火山爆発総合防災訓練	6名（医師1、看護師3、主事2）
1月24日～25日	2	佐賀県	日赤原子力災害対応基礎研修会	2名（医師1、主事1）
1月25日～26日	2	鹿児島市	九州沖縄ブロックＤＭＡＴ技能維持研修	7名（医師1、看護師1、主事3、ｽﾀｯﾌ2）
2月9日	1	さつま町	原子力防災訓練	6名（医師1、看護師3、主事2）

（３）医療社会事業


離島からの患者ヘリ搬送


遠隔医療(TV 会議)システム
による診察

ア　へき地医療拠点病院事業

鹿児島赤十字病院は、昭和５６年４月１日から鹿児島広域市町村圏のへき地中核病院として県の指定を受け離島・へき地医療に携わってきたが、へき地中核病院の再編成により平成１４年７月１日にへき地医療拠点病院として指定を受け県から４人の派遣医師を受入れ、離島・へき地診療所への医師の派遣及び巡回診療に取り組んでいる。

なお、三島村は平成１２年１０月から、十島村の上四島は平成１４年４月からそれぞれ医師１人の常駐化を図っているが、へき地診療所で対応困難な緊急を要する患者を、ヘリコプター（県消防防災ヘリ、鹿屋自衛隊ヘリ）で搬送する体制にも添乗医師として協力している。併せて、離島職員・患者と当院にいる医師が双方向でやりとりする遠隔医療(TV会議)システムを活用し、迅速な対応に努めている。

また、平成１７年４月から特定診療料（眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科）巡回診療が県から移管され、大学病院、県医師会の協力を得て、県内専門医不在市町村に医師・看護師等の派遣及び巡回診療を行った。

さらに、へき地医療拠点病院医師派遣事業の一環として、へき地診療所等に代診医師の派遣を行なった。

①三島村・十島村医師等派遣

地　区	診療所数	医師派遣延日数	看護師派遣延日数	延受診者数	医師添乗ヘリコプター急患搬送回数
三島村	4 診療所	135.0	0.0	1,909	0 回
十島村	7 診療所	301.0	21.0	2,305	4 回
計	**11 診療所**	**436.0**	**21.0**	**4,214**	**4 回**

②特定診療科巡回診療

	実　施 市町村	地区	派遣延日数（日）				受診者延数（人）			
			医師	看護師	その他	計	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	計
1	屋久島町	口永良部島	3.0	2.0	2.0	7.0	6	3	5	14
2	薩摩川内市	甑島３島	6.0	3.0	4.0	13.0	120	135	112	367
3	三島村	全３島	6.0	4.0	3.0	13.0	21	24	32	77
4	十島村	全７島	12.0	8.0	6.0	26.0	91	94	98	283
計			**27.0**	**17.0**	**15.0**	**59.0**	**238**	**256**	**247**	**741**

イ　へき地医療拠点病院医師派遣事業（代診医師）

派遣日	派遣先	派遣医師数(人)
3/2～3	薩摩川内市下甑手打診療所	1


特定診療科の巡回診療

ウ　居宅介護支援事業〔ケアプラン作成〕　（単位：件，％）

		ケアプラン作成件数											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延件数
鹿児島市	平成30年度計	27	26	27	28	28	30	31	29	27	23	28	26	330
	令和元年度計	23	25	27	25	26	27	26	27	26	26	26	25	309
鹿児島市外	平成30年度計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	4
	令和元年度計	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
計	平成30年度計	28	26	27	28	28	30	32	29	27	23	29	27	334
	令和元年度計	23	25	27	25	26	28	27	28	27	27	27	26	316
	対前年度比	82.1	96.2	100.0	89.3	92.9	93.3	84.4	96.6	100.0	117.4	93.1	96.3	94.6

エ　保健衛生事業への協力

①へき地における住民検診・赤十字講習会等

事業名	実施地区	実施人員（人）		対前年比（％）
		平成30年度	令和元年度	
住民健（検）診及び健康診断	三島村（4地区） 十島村（7地区）	485	448	92.4%
予防接種	三島村（4地区） 十島村（7地区）	655	812	124.0%
赤十字救急法講習会及びＡＥＤ講習	三島村（4地区） 十島村（7地区）	161	209	129.8%
特定健康診査	本院	99	174	175.8%
計		**1,400**	**1,643**	**117.4%**

②生活習慣病予防健診　（単位：人）

種類＼年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一般健診	497	402	413	455	422
人間ドック	104	84	84	69	58
脳ドック	72	102	108	86	73
計	**673**	**588**	**605**	**610**	**553**

オ　相談援護関係実施状況

内容	件数	内容	件数
家族関係に関すること	2	受診・受療に関すること	2,381
在宅介護・地域生活に関すること	1282	転院に関すること	1,146
療養生活に関すること	1197	他施設利用に関すること	85
経済的問題に関すること	24	心理・情緒的問題に関すること	18
就労・職場環境に関すること	6	他福祉関係利用に関すること	17
就学・教育環境に関すること	0	その他（カンファレンス・回診等）	247
虐待・暴力・人権に関すること	4		
		合計	6,409

11 血 液 事 業

血液事業は国民の信頼のうえに成り立っている事業であり、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律(血液法)」に基づき、献血者の安定的な確保と安全な輸血用血液の供給を使命としている。同法においては、輸血用血液の国内自給を基本理念とし、血液事業の実行にあたっては、国、都道府県及び市町村、採血事業者、血液製剤の製造販売業者等、医療関係者等の各々の役割と責任が明確化されている。

また、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)」に基づき、輸血用血液製剤の品質や安全性の確保を行っている。

日本赤十字社では、血液事業の運営体制について血液製剤の更なる「安全性の向上」と「安定供給の確保」、また、国民に信頼される効率的で持続可能な事業運営体制の確立を目的に、平成24年4月より従来の各都道府県の血液センター単位による事業運営体制から全国を7ブロックに分けたブロック単位での広域的な事業運営体制を開始した。
これまで九州各県で行っていた献血された血液の検査と輸血用血液製剤の製造は、九州ブロック血液センターで一括して行うこととなった。さらに平成30年度には、供給体制を見直し3月31日を以って備蓄医療機関制度を廃止した。

献血血液の約半分は輸血用血液製剤として輸血に使用され、残りの半分は血漿分画製剤という医薬品の原料となる。全国的には輸血用血液製剤の需要としては減少傾向がみられる一方で、鹿児島県では逆にやや増加傾向にある。また免疫グロブリン製剤の使用の拡大に伴い、血漿分画製剤の原料としての需要は大幅に増大している。鹿児島県では令和元年度の目標献血者数64,757人に対して、64,589人(対前年比101.3%)の方々に献血のご協力をいただいた。一方で同年度に、鹿児島県内の医療機関に供給された輸血用血液製剤は、200mL献血由来が1,065本、400mL献血由来が60,043本、成分献血由来が13,847本の合計74,955本(対前年比103.3%)となった。

今後の持続可能な血液事業のためには、採血・供給業務を受け持つ地域の血液センターとして、安心・安全を守りつつ、より効率的かつ合理的な事業運営が必要である。

鹿児島県赤十字血液センターでも、少子高齢化に伴い人口が減少している10～30代に対する献血思想普及啓発及び献血推進を目的として、「キッズ献血」の開催、「職場体験学習」の受入れ、「献血セミナー」等を実施するとともに、学生献血推進協議会の協力を得て「献血推進キャンペーン」や「イベント献血」等を実施している。また、離島を数多く有する血液センターとして、地域の医療機関にとって安心・安全な血液供給体制を築くための努力も継続していくこととしている。

（1） 採血・供給実績

ア 献血者数

（単位:人）

区　分	２００mL	４００mL	成　分	合　計
血液センター	57	4,455	8,235	12,747
献血ルーム	98	5,303	8,427	13,828
献血バス	157	37,857	0	38,014
合　計	312	47,615	16,662	64,589
構成比（%）	0.5%	73.7%	25.8%	100.0%
対前年比（%）	43.5%	99.7%	118.6%	101.3%

イ 総供給本数

（単位:本）

成　分	200mL由来	400mL由来	成分由来	合　計	200mL換算	対前年比
全血製剤	0	0		0	0	0.0%
赤血球製剤	679	49,491		50,170	99,661	103.2%
血漿製剤	386	10,552	2,255	13,193	30,510	102.5%
血小板製剤			11,592	11,592	115,735	103.6%
合　計	1,065	60,043	13,847	74,955	245,906	103.3%
構成比	1.4%	80.1%	18.5%	100.0%		

（2）献　血　推　進

献血の推進は、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」により、基本的には国及び地方公共団体の責務とされ、国及び地方公共団体が、毎年献血推進計画を策定することとなっている。一方、血液センターは、採血事業者として献血受け入れの推進を行わなければならないとされた。しかしながら、医療に必要な血液の確保は、県民一人ひとりの献血運動に対する理解と協力に支えられている。特に、少子高齢化が進む中、若年層の献血者確保に重点をおき、三者一体となった推進が必要である。

令和元年度においても、医療機関の要請を満たすべく、より副作用発生の可能性が低い４００ｍＬ献血及び成分献血の推進強化に努めるとともに、県民への献血思想の普及啓発を図るため、県・市町村献血推進協議会及びその他団体の協力を得て、下記の事業を実施した。

◎６月７日　　**「市町村・保健所献血推進主管課長及び担当者会議」**

血液製剤の安全性向上と安定供給を図るための基本方針や、最近の献血、輸血用血液製剤の供給状況や安全対策等について説明を行った。

また、輸血を受けたことのある方やその家族で構成している「～献血ありがとう～いのちをつなぐ友の会」の会員による講演も実施し献血の重要性について再確認いただいた。

◎７月１日
～３１日　　**「愛の血液助け合い運動月間」**

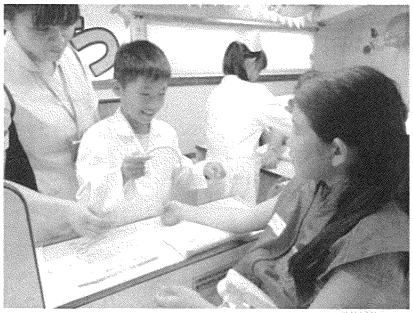
長期休暇などにより学校や企業、団体などからの献血へのご協力が得にくい夏季の輸血用血液の安定供給を図るため、厚生労働省・都道府県・日本赤十字社の主催により、毎年７月１日から１ケ月間にわたり全国各地で献血推進キャンペーンを実施している。

当県では、７月６日(土)に献血推進街頭キャンペーンを予定していたが、天候不良（大雨）により中止となった。

◎７月２６日
～２８日　　**「楽しく学ぼうキッズ献血」**

将来の献血者確保事業の一つとして小学生（４年～６年生）を対象に、視聴教材を用いた血液事業に関する講座や、医師・看護師・献血者等に扮装して模擬献血をする「キッズ献血」を実施し、期間中、小学生１３４名の参加があった。

このイベントを通して、将来の献血を担う若年層に対する献血思想の啓発を行うことができた。





◎１０月１８日　**「ライオンズクラブ献血推進セミナー」**

献血協力、推進等に大きな役割を果たしている県内ライオンズクラブの役員、会員の方々を中心に更なる血液事業への理解と相互の情報交換を目的とした「献血推進セミナー」を開催した。

セミナーでは、県内の血液事業について説明を行うとともに、各クラブの活動状況報告等を行い、今後の取組みについて対策等を協議した。

また、輸血を受けたことのある方やその家族で構成している「～献血ありがとう～いのちをつなぐ友の会」の会員による講演も実施し、献血の重要性について再確認いただいた。

◎１２月１０日
～１２月２２日　**「学生献血クリスマス献血キャンペーン２０１９」**

全国学生クリスマス献血キャンペーンの一環として、鹿児島県学生献血推進協議会の主催により、県内５か所（鹿児島大学・鹿児島国際大学・志學館大学・フレスポジャングルパーク・イオンモール鹿児島）において実施した。協賛企業・団体からのプレゼントによる抽選会、お菓子やドリンクサービスなど献血者が楽しめる企画を展開し、合計２６４名の方々に献血のご協力をいただいた。



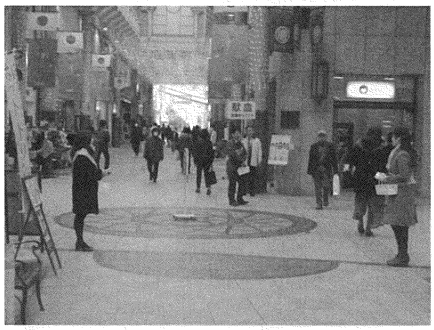


◎１月１日　　「はたちの献血キャンペーン」

～２月２９日　　成人として社会への第一歩を踏み出そうとしている若い方々を中心に、献血について理解を深めていただき、冬季における輸血用血液の安定供給を図るため、テレビやラジオＣＭ、ポスター掲示等の広報を行うなど１月から成人の日をはさみ２カ月間全国的に展開している。

当県では、１月１２日（日）天文館ベルク広場において、ライオンズクラブ、学生献血推進協議会等各種団体の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。





◎１月１３日　　「ＭＢＣラジオ献血ウィーク」

～１月２４日　　広く県民の方々に献血に対する理解を深めていただくため、１月１３日（月）から２４日（金）の１２日間を「ＭＢＣラジオ献血キャンペーン」に設定して、キャンペーンを実施した。期間中ラジオで献血に関する広報を行い、２，０５５名の方々にご協力いただいた。

◎２月９日　　「バレンタイン献血」

鹿児島県学生献血推進協議会が主催し、同年代の若年層を中心とした“献血の輪”を広げること、また、冬季はインフルエンザ等の流行により献血協力が得られにくいことから、輸血用血液の確保を目的として平成１５年より、毎年バレンタインデーの時期に合わせ実施している。

令和元年度は、イオンモール鹿児島において献血者にお礼としてチョコレートなどを差し上げて、献血強化を図った。

◎３月　　「ホワイトデー献血」

鹿児島県学生献血推進協議会が主催し、同年代である若年層への献血の呼びかけと感謝の気持ちを献血者に直接伝えることを目的として平成２４年より実施している。

令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

◎３月２０日　　「μFM献血ウィーク！」

～３月３１日　　一年を通じて献血者確保が特に難しい時期である年度末に、２，０００名を目標にリスナーへ献血を呼びかけるキャンペーンを実施した。

期間中は、エフエム鹿児島に血液センターの職員が出演し献血の呼びかけを行い、２，０７６名の方々にご協力いただいた。

（3）受　入　体　制

当県の固定施設である「献血プラザかもいけクロス」及び「献血ルーム天文館」においては、成分献血を中心とした献血者の確保と４００ｍＬ献血の推進に努めるとともに、安全な献血者を安定的に確保するために設置された複数回献血クラブ「ラブラッド」の会員募集を強化した。

一方、献血バスにおいては、医療機関からの要請に合わせた献血者確保を行うため、採血調整検討会を毎月開催し、自給自足の達成を目標に配車計画の調整を行った。また、九州ブロックにおける製剤業務集約後の各県の採血調整を行い効率的・安定確保を図るため、ブロック内で「需給計画検討部会」を開催している。

そのほか、イベントやキャンペーンを実施し、広く県民に献血思想の普及と血液事業への理解を求めるため、広報活動を実施した。

（4）供　給　体　制

医療機関からの血液要請に対して、受注から出庫・供給までの業務が円滑に行われるよう手順の再確認を行い、関連する法令を遵守しつつ、業務が適切に図られるように教育訓練を徹底した。

また、各医療機関との情報交換及び連携強化を図り、確実且つ迅速な供給業務に努めるとともに、供給予測の強化を図り、安定的な血液製剤の確保、有効利用の推進及び期限切れの抑制に努めた。

供給体制については、鹿児島県赤十字血液センター及び鹿屋・川内両出張所から、より品質管理の行き届いた輸血用血液製剤を、鹿児島県内全医療機関に安全・迅速且つ確実に直接供給する体制を強化する一方、緊急輸送にも十分に対応できるよう定時配送の推進に努めた。

併せて、離島において輸血用血液製剤を安心かつ安全に供給することを目的した、厚生労働科学研究「離島の中核病院における血液製剤利用に対して複数の連携医療機関が支援を行う運用の研究」に協力した。

（5）医　薬　情　報　活　動

県薬務課及び鹿児島県合同輸血療法懇話会と連携し、医療機関の輸血管理部門や輸血実施部門等に対し研修会を実施し、安全な輸血を行うための情報提供及び支援をし、受血者の安全性向上に努めた。

また、主要な医療機関へは院内の輸血療法委員会等に参加し、安定供給にかかる需要動向の把握、医療機関情報を積極的に収集した。

有害事象等の収集に努め、販売後安全管理業務を迅速に行った。

（6） 献血者登録制度の推進

血液の質・量両面にわたる円滑な確保を図ることを目的とした献血者登録制度、複数回献血者による複数回献血クラブ（メール会員）、まれ血及びＨＬＡ適合者の登録制度を統合し、平成３０年１０月より、複数回献血クラブ「ラブラッド」を発足した。

複数回献血クラブ(ラブラッド)登録者数

会員数	9,802人
（前年度末）	(6,025人)

（7） 骨髄バンク事業

骨髄提供者の受付及び登録業務を行い、データ管理に万全を期すとともに、献血併行型骨髄バンクドナー登録会への協力に努めた。

登録者受付数（新規）	432人
登録取消者数	268人
累計登録者数	4,716人
（前年度末累計登録者数）	4,552人

（8） 献血功労者表彰

第５５回献血運動推進全国大会が７月１１日、石川県（県立音楽堂）において開催され、献血功労者(鹿児島県関係）として次の方々が受賞された。

[厚生労働大臣表彰状]（３団体）

・学校法人志學館学園
　鹿児島女子短期大学
・学校法人川島学園鹿児島工学院専門学校
・北さつま農業協同組合

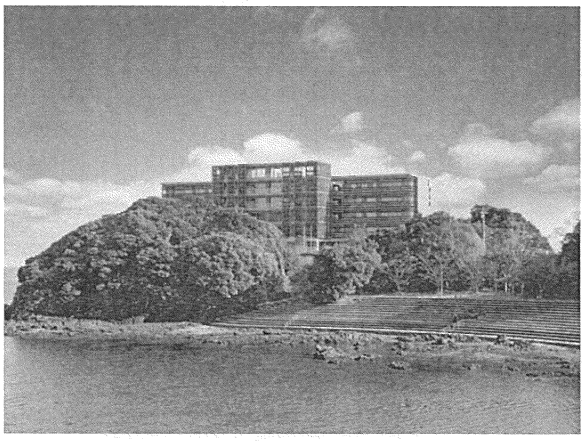
[厚生労働大臣感謝状]（７団体）

・鹿児島三菱自動車販売株式会社
・出水郡医師会広域医療センター
・南日本くみあい飼料株式会社志布志工場
・薩摩酒造株式会社　頴娃蒸留所
・志布志石油備蓄株式会社志布志事業所
・国際ロータリー第２７３０地区
　国分ロータリークラブ
・国際ロータリー第２７３０地区
　国分中央ロータリークラブ

12 社 会 福 祉 事 業

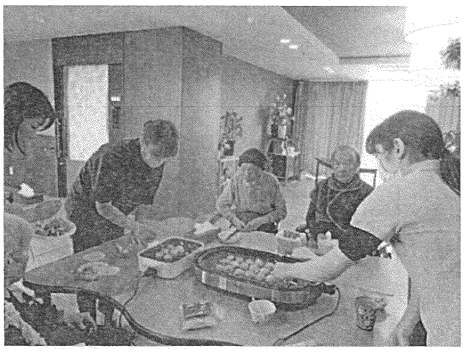
特別養護老人ホーム錦江園は、ユニット型施設として指定介護老人福祉施設事業（８０床）と短期入所生活介護事業（２床）の事業を行っている。

令和元年度においても、入居希望者の円滑な入居を進めるため、入居検討委員会を年４回開催した他、介護保険における各種加算項目の算定要件に適切に対応しながら経営の安定に努めた。



懸案となっている介護職員の処遇についても、「介護職員処遇改善加算」による賃金の引き上げを行い、人材の確保に努めた結果、大きな欠員を生じることなくサービスの提供を行うことができた。

なお、社会福祉事業の財源である介護保険事業収入は３９８，３２３千円となり、平成３０年度の決算額３８０，６６６千円と比較すると１７，６５７千円の増収となった。



入居者の介護にあたっては、一人ひとりの個性や生活リズムに沿ってサービスを提供し、施設あっても自宅での生活を継続できるよう支援した他、入居者が有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

さらに、鹿児島赤十字病院や歯科医療機関等の協力をいただき、入居者の健康管理、口腔ケアに努めた。

（１）指定介護老人福祉施設事業

令和元年度の施設介護料収入は、各種加算の取得や入居率の向上、入院延べ日数の大幅な改善により、前年度より１３，０４６千円増の２９６，２８０千円となった。

＜利用状況＞

	定員数（人）	総日数（日）	延べ数（人）	入居率（％）
令和元年度	８０	２９，２８０	２８，１７９	９６．２
平成３０年度	８０	２９，２００	２７，２９２	９３．５

※総日数＝３６５日（１年間）×定員数

＜入退居者の状況＞　（単位：人）

区　分	入　居	退　所	死　亡
令和元年度	２２	5	１７
平成３０年度	３４	6	２８

＜入院の状況＞　（延べ日数）

	４月 ～６月	７月 ～９月	１０月 ～１２月	１月 ～３月	計
令和元年度	３１７	２２７	２７２	２３６	１，０５２
平成３０年度	４７０	４５７	４９７	３５２	１，７７６

＜要介護度の状況＞　（年度末時点）

要介護度	1	2	3	4	5	計	平均介護度
令和元年度	1	0	１４	３３	３２	８０	４．１９
平成３０年度	1	0	２３	２７	２９	８０	４．０４

（２）　短期入所生活介護事業

令和元年度の居宅介護料収入は、利用率の大幅な改善や平均介護度の上昇により、前年度より１，６３９千円増の６，００８千円となった。

＜利用状況＞

	定員数（人）	総日数（日）	延べ数（人）	利用率（％）
令和元年度	2	７３２	６６６	９１．０
平成３０年度	2	７３０	５４６	７４．８

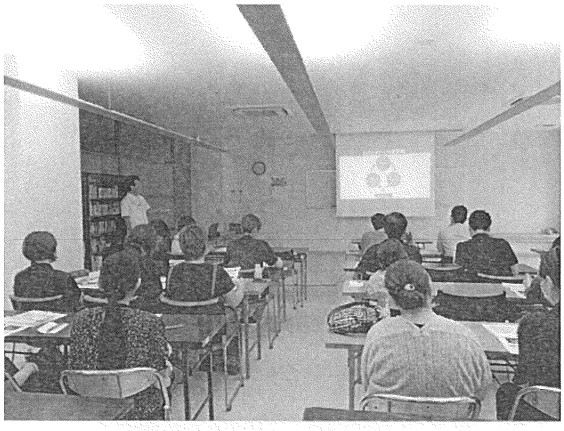
※総日数＝３６５日（１年間）×定員数（２名）

＜利用者数・要介護度の状況＞　（年度末時点）

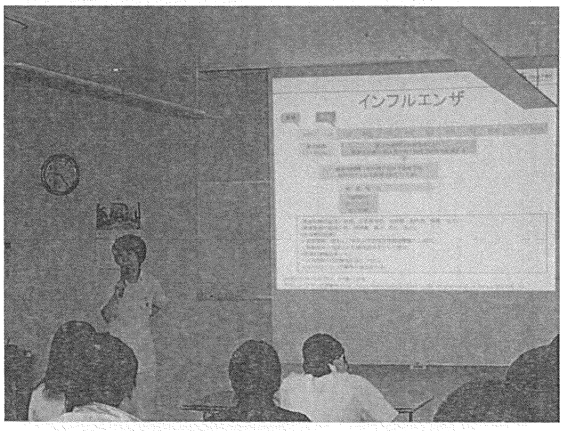
要介護度	1	2	3	4	5	計	平均介護度
令和元年度	0	0	1	3	4	8	４．３７
平成３０年度	0	0	9	2	2	１３	３．４６

（３）　入居者へ質の高いサービスの提供

・職員の資質の向上と職業倫理の徹底を図るため職場内研修を毎月開催し延べ３９８名の職員が参加した。
・外部で開催される各種の研修会に３９回、延べ６２名の職員が参加した。
・職場内研修を充実させるため「感染症等発生予防研修会」「口腔ケア研修会」「介護事故防止研修会」等は、外部から講師を招いて行った。
・「サービス担当者会議」等の各種会議、「感染症等対策委員会」「介護事故防止検討委員会」「身体的拘束適正化検討委員会」等の各種委員会を定期的に開催し、職種間の緊密な連携による質の高いサービスの提供に努めた。
・鹿児島赤十字病院と提携し、週１回の回診を行うことで入居者の健康管理に努めた。
・協力歯科医療機関の歯科医師から入居者の口腔ケアに係る技術的助言や指導を受け、経管栄養食から経口摂取への移行や入居者の口腔機能を維持管理するための口腔ケアに努めた。
・入居者の情緒の安定を図るため、買い物やドライブ、自宅への帰省支援、墓参りなどの個別レクリエーションを実施した。



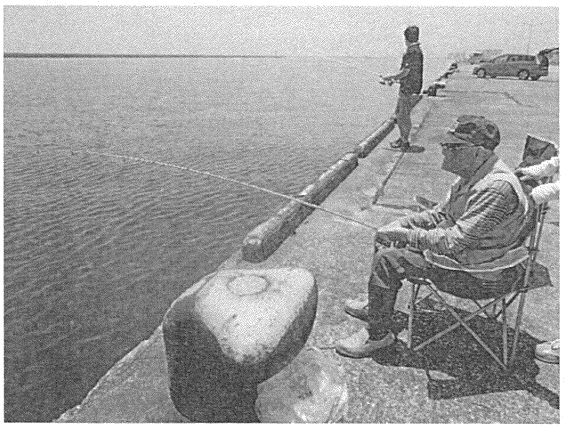
（口腔ケア研修会）



（感染症等発生予防研修会）



（そうめん流しへの外出）



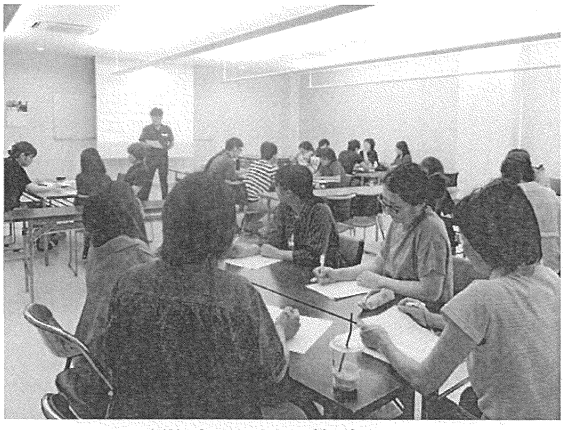
（魚釣り）

（４） 入居者の安全対策・環境整備

・防災安全委員会を年４回開催した他、防火避難訓練や災害対応研修会を実施し、防災対策および防災意識の向上に努めた。



（防火避難訓練）



（災害対応研修会）

（５） ボランティアの受入れと地域との連携

・敬老祝賀会や慰問などで地区民生委員、地域女性部や老人フクラブ、青年赤十字奉仕団、高校青少年赤十字協議会など延べ２３７名の団体や個人のボランティアを受け入れ、入居者と入居者の家族・地域住民との交流を積極的に行った。

・地域内協力者（町内会、民生委員協議会、地域小学校、中学校、高校等）で構成される「平川まちづくり協議会」に参加し、福祉・安全部会メンバーとして地域との連携や交流拡大に努めた。



（春のレクリエーション）



（平川小学校児童来園）

（６） 実習生の受入れ

・介護福祉士等を目指す学生（大学生、専門学校生など）の介護実習等や学生の職場体験学習等を受け入れ、地域との連携に努めた。

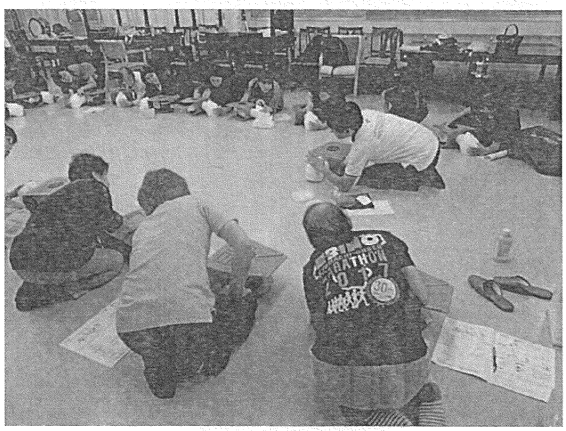
＜実習生の受け入れ状況＞

区　分	団　体　・　養　成　校　等	人員	延日数
介護実習等	鹿児島国際大学（２名） 鹿児島医療技術専門学校（２名） 介護労働安定センター（２名）	６名	７８日
介護体験等	福平中学校（５名）	５名	１５日
看護実習	鹿児島医療技術専門学校（５名）	５名	２０日
合　　計		１６名	１１３日

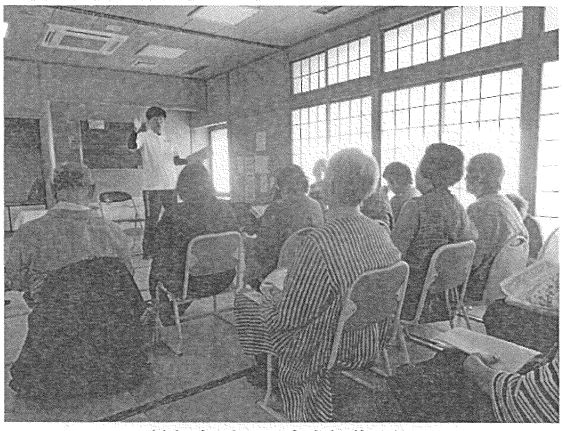
（７）地域貢献活動について

・地域に信頼され開かれた福祉施設を目指して、地域や学校主催のイベントにおいて、救急法や生活習慣病予防講座、介護講習等の出前講習を行った。

・台風接近時の避難先として施設を開放し、地域住民の受け入れを行った。



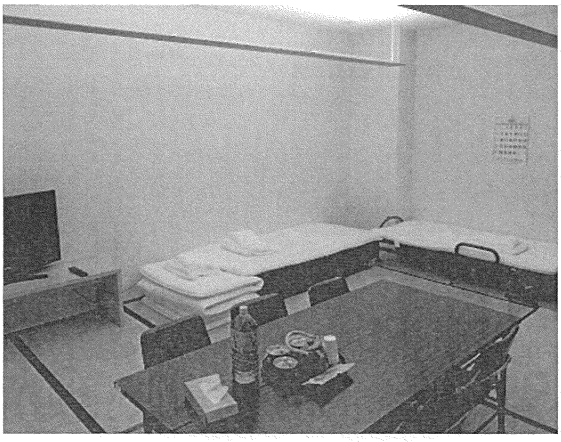
（救急法講習）



（健康生活支援講習）



（福祉フェスタ in たにやま）



（台風避難者の受け入れ）

（８） 広報活動について

・ホームページを随時更新し、地域や一般市民に対して必要な情報を提供した。

（９） その他

・鹿児島県赤十字有功会からアルミ多機能車椅子２台、錦江園家族会からティルト・リクライニング車椅子１台、アルミ多機能車椅子１台を寄贈していただいた。



（参　考）

令和元年度における入居者の状況（令和２年３月３１日現在）

（ア）出身市町村別、年齢別の状況　　（単位：人）

年齢／出身地	性別	65歳～69歳	70歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計	合計
鹿児島市	男		3	5	2		2		１２	６６
	女	1	4	7	１２	１９	9	2	５４	
南九州市	男		1						1	4
	女			1		2			3	
指宿市	男		1						1	3
	女				1		1		2	
南さつま市	女	1				1	1		3	3
枕崎市	女		1						1	1
垂水市	女					1			1	1
中種子町	男				1				1	1
十島村	女						1		1	1
計	男		5	5	3		2		１５	８０
	女	2	5	8	１３	２３	１２	2	６５	

平均年齢	８８歳１月	最高年齢	１００歳４月	最少年齢	６７歳７月
男	８２歳５月	男	９５歳11月	男	７０歳１月
女	８９歳４月	女	１００歳４月	女	６７歳７月

（イ）在園期間　　（単位：人）

在園期間／性別	１年未満	２年未満	３年未満	４年未満	５年未満	６年未満	７年未満	８年未満	９年未満	１０年未満	１１年未満	１２年未満	１６年未満	合計
男	5	4	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	１５
女	１２	１８	9	6	2	2	6	1	2	1	3	1	2	６５
計	１７	２２	１３	6	2	3	7	1	2	1	3	1	2	８０

（ウ）　日常生活能力　　（単位：人）

区分	歩行				食事			入浴			着衣			排泄					
														昼間			夜間		
														便所		おむつ使用	便所		おむつ使用
	自力歩行	杖等の歩行補助器使用	車いす使用	歩行介助	自分で可能	一部介助	全面介助	自分で可能	一部介助	全面介助	自分で可能	一部介助	全面介助	自分で可能	介助		自分で可能	介助	
実数（人）	2	7	70	1	48	13	19	2	22	56	4	23	53	12	31	37	8	18	54

（エ）疾病の状況　　（単位：人）

病名	人員	病名	人員
脳卒中後遺症	32	糖尿病	3
アルツハイマー型認知症	18	甲状腺機能低下症	2
脳血管性認知症	3	精神遅滞	1
レビー小体型認知症	1	脊髄損傷	1
心疾患	5	脊柱管狭窄症	1
関節リウマチ	11	肺塞栓症	1
パーキンソン病	2	多発筋痛症	1

（カ）死亡者の死因　　（単位：人）

区分＼疾病名	老衰	肺炎	心不全	肝性脳症	計
施設	5	5	0	1	11
病院	0	5	1		6
計	5	10	1	1	17

13　評議員会及び監査等

（１）支部評議員会

評議員会を次のとおり開催し、いずれの議案も原案どおり承認された。

・第１回支部評議員会［６月５日（水）於：マリンパレスかごしま］

第１号議案　平成３０年度主要事業の実施状況報告及び平成３０年度歳入歳出決算について

第２号議案　支部長の選出について

・第２回支部評議員会［２月５日（水）於：マリンパレスかごしま］

第１号議案　令和２年度事業計画（案）及び令和２年度歳入歳出予算（案）について

（２）業務監査

平成３０年度支部業務及び会計歳入歳出決算の支部監査委員による監査は、５月３０日（木）に、監査委員３名により各施設の監査が実施され、適正であるとの講評を得た。

○日本赤十字社鹿児島県支部一般会計

○鹿児島赤十字病院医療施設特別会計

○特別養護老人ホーム錦江園社会福祉施設特別会計

（３）地区・分区関係各種会議等

会員増強運動並びに事業の進展を図るため、次の会議・研修会等を開催した。

ア　地区・分区支所等事務長及び担当者研修会

・４月２２日（月）

場　　所　　マリンパレスかごしま

参加者数　　７０人

研修内容　　赤十字について

赤十字事務取扱要領について

日本赤十字社の活動報告

グループワーク（会員増強のため現在行える広報、今後行える広報について）

イ　社業振興幹事会

・１０月１８日（金）

場　　所　　鹿児島県赤十字会館

出　　席　　２４人（幹事）

議　　題　　鹿児島県支部における社資募集の現状について

鹿児島県支部における社資募集の課題と今後の取り組みについて
赤十字大会等について

ウ　副地区長及び担当者会議（郡地区）

・１月２４日（金）

場　　所　　鹿児島県赤十字会館
出　　席　　１２人
議　　題　　令和元年度主要事業実施状況概要について
令和２年度事業計画について
令和元年度会員数・社資額の状況について
令和２年度赤十字会員増強運動事務処理要領及び目標額について
地区説明会について
令和２年全国赤十字大会について
令和２年度九州八県赤十字大会について

エ　市地区事務長会議

・２月２１日（金）

場　　所　　鹿児島県赤十字会館
出　　席　　１９人（市地区）
議　　題　　令和元年度主要事業実施状況概要について
令和２年度事業計画について
令和元年度会員数・社資額の状況について
令和２年度赤十字会員増強運動事務処理要領及び目標額について
令和２年全国赤十字大会について
令和２年度九州八県赤十字大会について

オ　郡地区説明会

・２月１３日（木）～２７日（木）（６地区４会場で開催）

出　　席　　４０人（郡地区・地区・分区担当者等）
議　　題　　令和元年度主要事業実施状況概要について
令和元年度会員数・社資額の状況について
令和２年度事業計画について
令和２年度赤十字会員増強運動事務処理要領及び目標額について
令和２年全国赤十字大会について
令和２年度九州八県赤十字大会について

14　決　算　状　況

（1）令和元年度一般会計歳入歳出決算書

日本赤十字社鹿児島県支部

歳入						歳出					
科　目	予算現額 (A)	決　算　額 (B)	予算現額に比し増減 (B)－(A)	収入率 (B/A)	全体比	科　目	予算現額 (C)	決　算　額 (D)	不　用　額 (C-D)	執行率 (D/C)	全体比
	円	円	円	%	%		円	円	円	%	%
支部収入	267,571,000	261,703,149	△ 5,867,851	97.8	100.0	支部費	267,571,000	219,575,534	47,995,466	82.1	100.0
社資収入	225,000,000	204,954,110	△ 20,045,890	91.1	78.3	災害救護事業費	26,697,000	24,134,283	2,562,717	90.4	11.0
委託金等収入	0	97,400	97,400	#DIV/0!	0.1	社会活動費	42,124,000	29,479,572	12,644,428	70.0	13.4
補助金及び交付金収入	1,754,000	812,640	△ 941,360	46.3	0.3	国際活動費	58,000	0	58,000	0.0	0.0
繰入金収入	0	1,049,843	1,049,843	#DIV/0!	0.4	指定事業地方振興費	900,000	900,000	0	100.0	0.4
貸付金償還金収入	5,000,000	5,000,000	0	100.0	1.9	地区分区交付金支出	42,490,000	36,894,240	5,595,760	86.8	16.8
雑収入	2,698,000	3,356,253	658,253	124.4	1.3	社業振興費	39,064,000	25,901,654	13,162,346	66.3	11.8
前年度繰越金	33,119,000	46,432,903	13,313,903	140.2	17.7	基盤整備交付金・補助金支出	1,006,000	1,005,287	713	99.9	0.5
						積立金支出	12,559,000	11,718,956	840,044	93.3	5.3
						総務管理費	58,352,000	53,589,737	4,762,263	91.8	24.4
						資産取得及び資産管理費	8,622,000	5,613,689	3,008,311	65.1	2.6
						本社送納金	33,345,000	30,338,116	3,006,884	91.0	13.8
						予備費	2,354,000	0	2,354,000	0.0	0.0
合　　計	267,571,000	261,703,149	△ 5,867,851	97.8	100.0	合　　計	267,571,000	219,575,534	47,995,466	82.1	100.0

歳入歳出差引額　　42,127,615 円

(2)　令和元年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

鹿児島赤十字病院

〔収益的収入〕

科　　目	予算現額 (A)	決算額 (B)	予算現額に比し増減 (B)－(A)	収入率 (B/A)	全体比
	円	円	円	%	%
1 医業収益	3,789,480,000	3,605,555,626	△ 183,924,374	95.1	96.9
2 医業外収益	60,442,000	62,286,067	1,844,067	103.1	1.6
3 医療社会事業収益	67,265,000	53,186,212	△ 14,078,788	79.1	1.4
5 特別利益	0	0	0	0.0	0.0
収益的収入 合計	3,917,187,000	3,721,027,905	△ 196,159,095	95.0	100.0

〔収益的支出〕

科　　目	予算現額 (C)	決算額 (D)	不用額 (C−D)	執行率 (D/C)	全体比
	円	円	円	%	%
1 医業費用	3,857,508,000	3,766,565,811	90,942,189	97.6	97.9
2 医業外費用	16,204,000	16,123,148	80,852	99.5	0.4
3 医療奉仕費用	69,009,000	45,472,820	23,536,180	65.9	1.2
5 特別損失	5,200,000	5,162,480	37,520	99.3	0.1
6 法人税等	13,300,000	13,267,628	32,372	99.8	0.0
7 予備費	0	0	0	0.0	0.0
収益的支出 合計	3,961,221,000	3,846,591,887	114,629,113	97.1	99.6

収益的収入支出差引額　　△ 125,563,982 円

〔資本的収入〕

科　　目	予算現額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額 (C)	予算現額に比し増減 (A)－(B)－(C)
	円	円	円	円
1 固定負債	86,800,000	81,358,413		5,441,587
3 その他資本収入	117,576,000	111,615,544		5,960,456
資本的収入 合計	204,376,000	192,973,957	0	11,402,043

〔資本的支出〕

科　　目	予算現額 (D)	決算額 (E)	翌年度繰越額 (F)	不用額 (D)－(E)－(F)
	円	円	円	円
1 固定資産	93,300,000	84,681,947		8,618,053
2 借入金等償還	111,076,000	108,292,010		2,783,990
資本的支出 合計	204,376,000	192,973,957	0	11,402,043

資本的収入支出差引額　　0 円

（3）令和元年度社会福祉施設特別会計歳入歳出決算書

1　事業活動による収入及び支出

科目		予算現額 (A)	決算額 (B)	予算現額に比し増減 (B)－(A)	収入率 (B/A)	全体比
		円	円	円	%	%
1 施設収入						
	1　介護保険事業収入	395,271,000	398,323,102	3,052,102	100.8	99.8
	10 経常経費寄付金収入	0	472,000	472,000	0.0	0.1
	11 受取利息配当金収入	0	0	0	0.0	0.0
	12 その他の収入	270,000	235,877	△ 34,123	87.4	0.1
事業活動収入計		395,541,000	399,030,979	3,489,979		100.0

科目		予算現額 (C)	決算額 (D)	不用額 (C)－(D)	執行率 (D/C)	全体比
		円	円	円	%	%
1 施設費						
	1　人件費支出	308,156,000	303,342,721	4,813,279	98.4	81.7
	2　事業費支出	47,164,411	47,164,411	0	100.0	12.7
	3　事務費支出	19,186,000	18,539,269	646,731	96.6	5.0
	6　利用者負担軽減額	900,000	868,683	31,317	96.5	0.2
	7　支払利息支出	1,139,506	1,139,506	0	100.0	0.3
	8　その他の支出	119,592	119,592	0	100.0	0.0
事業活動支出計		376,665,509	371,174,182	5,491,327	98.5	100.0

事業活動資金収支差額　27,856,797　円

2　施設整備等による収入及び支出

科目		予算現額 (A)	決算額 (B)	収入未済額 (C)	予算現額に比し増減 (B)－(A)＋(C)
		円	円	円	円
	14　施設整備等補助金収入	0	0	0	0
	16　設備資金借入金収入	0	0	0	0
施設整備等収入計		0	0	0	0

科目		予算現額 (D)	決算額 (E)	翌年度繰越額 (F)	不用額 (D)－(E)－(F)
		円	円	円	円
	10 設備資金借入金元金補償支出	14,808,000	14,808,000	0	0
	11　固定資産取得支出	630,000	630,000	0	0
	12　固定資産除却・廃棄支出	0	0	0	0
	13 ファイナンス・リース債務の返済支出	2,394,000	2,359,017	0	34,983
施設整備等支出計		17,832,000	17,797,017	0	34,983

施設整備等資金収支差額　△ 17,797,017　円

3　その他の活動による収入及び支出

科目		予算現額 (A)	決算額 (B)	収入未済額 (C)	予算現額に比し増減 (B)－(A)＋(C)
		円	円	円	円
	24　他会計長期借入金収入	0	0	0	0
	28　他会計繰入金収入	0	335,888	0	335,888
	31　その他の活動による収入	15,800,000	26,192,668	0	10,392,668
財務活動収入計		15,800,000	26,528,556	0	10,728,556

科目		予算現額 (D)	決算額 (E)	翌年度繰越額 (F)	不用額 (D)－(E)－(F)
		円	円	円	円
	21　他会計長期借入金返済支出	5,000,000	5,000,000	0	0
	26　その他活動による支出	11,301,000	9,285,813	0	2,015,187
財務活動支出計		16,301,000	14,285,813	0	2,015,187

その他の活動資金収支差額　12,242,743　円

4　当期末支払資金残高

	予算現額 (A)	決算額 (B)	予算現額に比し増減 (B)－(A)
	円	円	円
事業活動資金収支差額	18,875,491	27,856,797	8,981,306
施設整備等資金収支差額	△ 17,832,000	△ 17,797,017	34,983
その他の活動資金収支差額	△ 501,000	12,242,743	12,743,743
予備費	480,491		
当期資金収支差額合計	62,000	22,302,523	22,240,523

前期末支払資金残高	83,918,000	82,647,995	△ 1,270,005
当期末支払資金残高	83,980,000	104,950,518	20,970,518

5　収入支出の合計

	予算現額 (A)	決算額 (B)	収入未済額 (C)	予算現額に比し増減 (B)－(A)＋(C)
	円	円	円	円
収　入　合　計	495,259,000	508,207,530	0	12,948,530

	予算現額 (D)	決算額 (E)	翌年度繰越額 (F)	不用額 (D)－(E)－(F)
	円	円	円	円
支　出　合　計	411,279,000	403,257,012	0	8,021,988

収入支出差引額　104,950,518　円

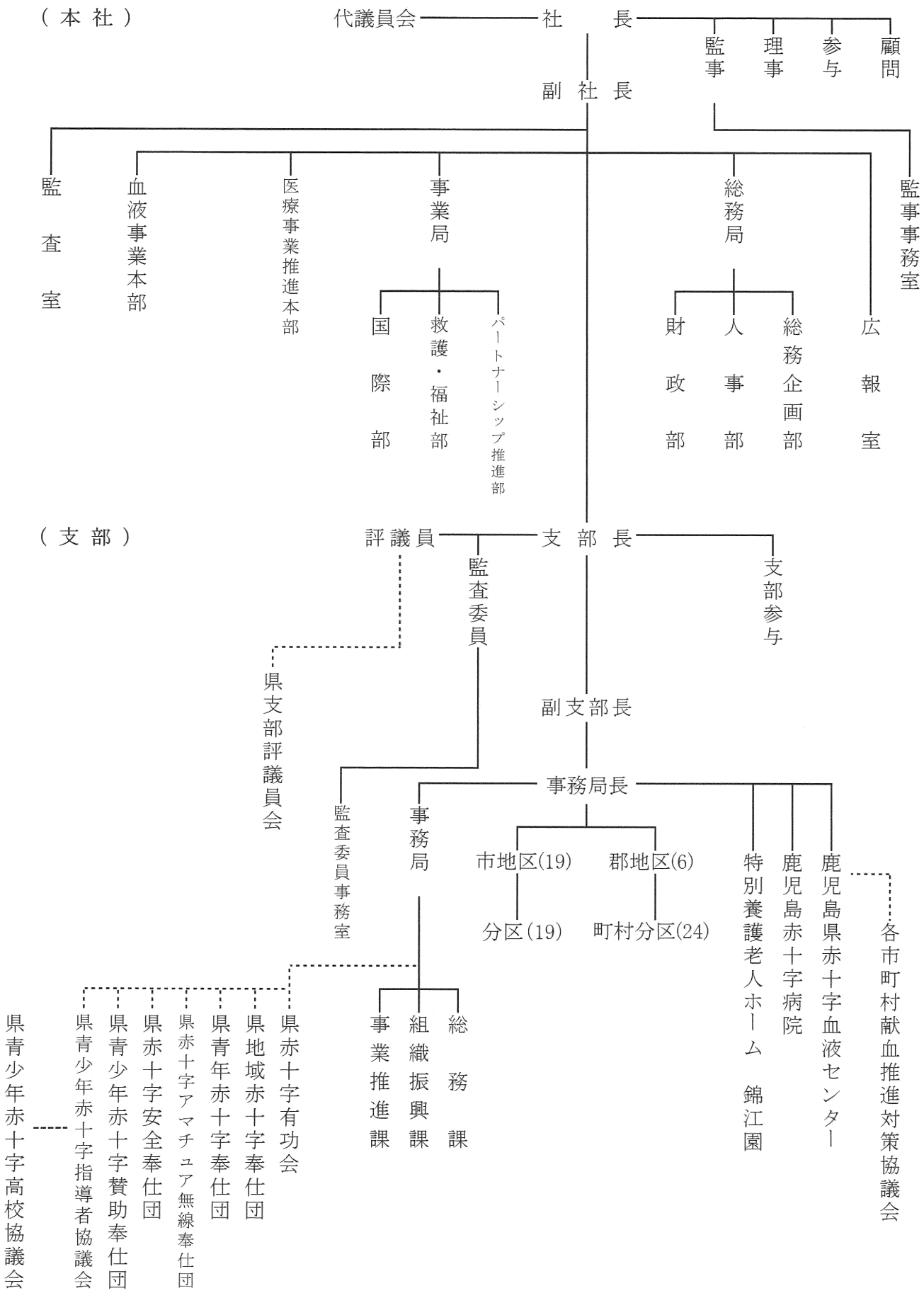


参考資料

本社及び支部組織図等

組　織　図

（ 令和2年4月1日　現在 ）



日本赤十字社鹿児島県支部主要役員名簿

主要役員名

(令和２年４月１日現在)

役職名	氏名	現職	任期
支部長	三反園訓	県知事	R1. 7.28 ～ R4. 7.27
副支部長	中村かおり	県副知事	H30. 10.11 ～ R3.10.10
〃	地頭所恵	県くらし保健福祉部長	R2. 4. 1 ～ R5. 3.31
本社理事	岩元恭一	㈱山形屋社主	H31. 4. 1 ～ R4. 3.31
支部選出本社代議員	岩元恭一	㈱山形屋社主	H31. 2.14 ～ R4. 2.13
〃	田畑誠一	いちき串木野市長	〃
〃	今別府哲矢	薩摩川内市社会福祉協議会会長	〃
〃	川畑俊彦	南生建設㈱名誉会長	〃
〃	伊佐幸子	赤十字奉仕団県支部委員会委員長	〃
支部監査委員	上川路長生	公認会計士・税理士	H30. 7. 1 ～ R3. 6.30
〃	大柳俊一	県町村会事務局長	H30. 4. 1 ～ R3. 3.31
〃	下茂孝一	元東市来町長	H29. 6.24 ～ R2. 6.23

支部参与

氏名	公職名	就任年月日
東條広光	県教育長	平成30年4月1日
清藤修	県くらし保健福祉部次長	令和２年４月１日
松田典久	前支部事務局長	令和２年４月１日

日本赤十字社鹿児島県支部　評議員　名簿

■評 議 員

任期(平成３１年２月１４日～令和４年２月１３日)　　令和２年４月１日現在

地区名	氏名	職業
鹿児島市地区	森　博幸	鹿児島市長
〃	上之園　彰	鹿児島市社会事業協会 理事長
〃	米盛孝一	日赤鹿児島市地区協賛委員会 会長
〃	中間隆志	日赤鹿児島市地区協賛委員会副会長
〃	臼山　剛	日赤鹿児島市地区協賛委員会副会長
〃	赤星貴子	鹿児島中央赤十字奉仕団 委員長
〃	丸田智恵子	鹿児島市谷山赤十字奉仕団 委員長
鹿屋市地区	中西　茂	鹿屋市長
〃	宮下　昭廣	鹿屋市社会福祉協議会 会長
枕崎市地区	前田祝成	枕崎市長
阿久根市地区	西平良将	阿久根市長
出水市地区	椎木伸一	出水市長
指宿市地区	豊留悦男	指宿市長
西之表市地区	八板俊輔	西之表市長
垂水市地区	尾脇雅弥	垂水市長
薩摩川内市地区	岩切秀雄	薩摩川内市長
〃	今別府哲也	薩摩川内市社会福祉協議会 会長
日置市地区	宮路高光	日置市長
曽於市地区	五位塚剛	曽於市長

地区名等		氏名	職業
霧島市地区		中重真一	霧島市長
〃		福永　洽	霧島市社会福祉協議会会長
いちき串木野市地区		田畑誠一	いちき串木野市長
南さつま市地区		本坊輝雄	南さつま市長
志布志市地区		下平晴行	志布志市長
奄美市地区		朝山　毅	奄美市長
南九州市地区		塗木弘幸	南九州市長
伊佐市地区		隈元　新	伊佐市長
姶良市地区		湯元敏浩	姶良市長
郡地区	鹿児島・姶良・北薩	川添　健	長島町長
	大　隅	森田俊彦	南大隅町長
	熊　毛	小園裕康	南種子町長
	大　島	伊集院　幼	大和村長
支部長選出		岩元恭一	(株)山形屋 社主
〃		池田琢哉	県医師会 会長
〃		赤塚典久	県赤十字有功会 会長
〃		川畑俊彦	南生建設(株) 名誉会長
〃		佐潟隆一	(株)南日本新聞社 社長
〃		中野寿康	(株)南日本放送 社長
〃		伊佐幸子	赤十字奉仕団県支部委員会 委員長
〃		六笠登由	県青少年赤十字指導者協議会会長

評議員　計　　４０名

日 本 赤 十 字 社 現 勢

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

日本赤十字社スローガン　人間を救うのは、人間だ。

赤十字の基本原則　人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

1949年のジュネーブ四条約締約国　196カ国

世界の赤十字社・赤新月社等　191社

1. 沿　革

明治10年(1877)	5月 1日	博愛社設立
明治20年(1887)	5月20日	日本赤十字社に改称
昭和27年(1952)	8月14日	日本赤十字社法制定

2. 名誉総裁・名誉副総裁（令和元年5月1日現在）

名　誉　総　裁　皇　后　陛　下
名　誉　副　総　裁　秋篠宮皇嗣妃殿下
常陸宮殿下・同妃殿下
三笠宮妃殿下　寛仁親王妃信子殿下
高円宮妃殿下

3. 会　員（平成31年3月31日現在）

個人	14.1万人	
法人	7.6万法人	

4. 評 議 員　2,007人

5. 代 議 員　223人

6. 役　員（令和元年7月1日現在）

社　長　大塚　義治（常勤）
副社長　富田　博樹（常勤）　中西　宏明（非常勤）
理　事　61人（常勤1人、非常勤60人）
監　事　3人（非常勤）

7. 青少年赤十字（平成31年3月31日現在）

幼稚園・保育所	1,714校	146,184人
小学校	7,089校	1,978,405人
中学校	3,536校	968,849人
高等学校	1,911校	293,643人
特別支援学校	185校	18,370人
計	14,435校	3,405,451人
指導者	225,506人	

8. 赤十字ボランティア（平成31年3月31日現在）

地域赤十字奉仕団	2,126団	1,174,253人
青年赤十字奉仕団	165団	7,075人
特殊赤十字奉仕団	636団	33,341人
個人ボランティア	-	4,355人
計	2,927団	1,219,024人

9. 救急法等の講習

	資格登録者数（平成31年3月31日現在）		受講者数（平成30年度）
	指導者	救急員等	
救急法基礎講習	11,186人	174,383人	47,131人
救急法	7,087人	105,426人	481,879人
水上安全法	1,593人	8,931人	70,151人
雪上安全法	202人	917人	576人
幼児安全法	2,304人	15,810人	79,425人
健康生活支援講習	1,718人	11,180人	93,259人
計	24,090人	316,647人	772,421人

10. 看護師等の教育

施設数	
大学（大学院併設）	6
短期大学	1
看護専門学校	15
助産師学校	1
幹部看護師研修センター	1
計	24

一学年養成定員		
看護師	21校	1,275人
助産師	6校	88人
保健師	6校	159人
幹部看護師	1校	120人
介護福祉士	1校	30人

11. 国 際 活 動

国際救援・開発要員派遣（平成30年度）	8カ国　のべ84人
国際赤十字・赤新月社連盟出向	2人（スイス、マレーシア）
赤十字国際委員会出向	1人（ミャンマー）
国際援助額（平成30年度）	25億円

12. 国内災害救護

救護員数	5,899人（常備救護班要員を含む）	
常備救護班	489班	3,437人
無線局	（平成31年3月31日現在）	3,238局
救護車両		665台
赤十字飛行隊（特殊奉仕団）		100機
災害における救護員出動数（平成30年度）	11件	1,344人
取扱義援金額（平成31年3月31日現在）		
1. 平成30年度受付義援金（東日本大震災を除く）		302億508万9,673円
2. 東日本大震災における平成30年度受付義援金		10億869万9,805円
配分救援物資（毛布・緊急セット等）		27,806個

13. 医 療 事 業

施設数			
病院	91	診療所	5
		老人保健施設	6
病床総数	35,960床（平成31年3月31日現在）		

総患者数（平成30年度）		1日平均
入院	1,074万人	2.9万人
外来	1,647万人	6.7万人

14. 血 液 事 業

施設数			
地域血液センター	47	ブロック血液センター	7
附属施設（献血ルーム120を含む）	172	（分置施設	5）

献血者数（平成30年度）		供給本数（平成30年度）	
成分献血	136万人	輸血用製剤	1,734万本
400mL献血	323万人	車両台数（平成31年3月31日現在）	
200mL献血	14万人	献血運搬車	777台
計	474万人	移動採血車	284台

15. 社会福祉事業

児童福祉施設数（定員）			
乳児院	8（291）	医療型障害児入所施設	3（286）
保育所	3（358）		
児童養護施設	1（40）		

老人福祉施設数（定員）			
特別養護老人ホーム（併設ケアハウス20人を含む）			8（773）
障害者福祉施設数（定員）		複合型施設	1（定員）
障害者支援施設	1（50）	特別養護老人ホーム	（110）
視聴覚障害者情報提供施設	2	介護老人保健施設	（100）
補装具製作施設	1	高齢者グループホーム	（18）
		障害者支援施設	（10）

16. 職員数（施設数）

	職員数
本社（1）	538人
支部（47）	728人
医療事業（117）	58,979人
血液事業（231）	6,012人
社会福祉事業（28）	1,221人
計	67,478人

17. 会　計（令和元年度当初予算）

一般会計	本社	110億2千万円
	支部	189億8千万円
医療施設特別会計		1兆1,006億3千万円
血液事業特別会計		1,587億2千万円
社会福祉施設特別会計		153億3千万円

（特に断りのない統計数字等は、平成31年4月1日現在）

支部の現勢

令和2年4月1日 現在

役　員

支部長	三反園　訓	
副支部長	中村かおり	
	地頭所　恵	
本社理事	岩元　恭一	
本社代議員		5 人
監査委員		3 人
評議員		40 人

赤十字奉仕団委員長及び団員数

赤十字奉仕団県支部委員会委員長 伊佐幸子

・地域赤十字奉仕団(62団)

団員数 14,787 人

・赤十字安全奉仕団委員長 岩屋幹夫

団員数 151 人

・青年赤十字奉仕団委員長 中俣春香

団員数 16 人

・赤十字アマチュア無線奉仕団委員長 松木孝生

団員数 324 人

・赤十字看護奉仕団委員長 （休止中）

団員数 0 人

・青少年赤十字賛助奉仕団委員長 野村大綱

団員数 40 人

赤十字有功会

会長　赤塚典久　会員数　326 人(社)

青少年赤十字指導者協議会

会長　六笠登由

青少年赤十字加盟校・園

学校・保育園幼稚園	537 校園
青少年赤十字メンバー	89,970 人

社　員

個人社員	305,009 人
法人社員	1,367 社
合計	306,376 人(社)

講習指導員

救急法指導員	114 人
水上安全法指導員	43 人
幼児安全法指導員	36 人
健康生活支援講習指導員	26 人

医療事業

病院	1 病院
診療科目	9 科
内科・リウマチ科・循環器内科・呼吸器内科・整形外科・脳神経外科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科	
救急車等の配置	
救急車	1 台
災害救援車	1 台
一般病床	120 床
医師	45 人
医療技師	40 人
看護師	117 人

血液事業

血液センター・献血ルーム天文館・鹿屋出張所・川内出張所

移動採血車	5 台
検診車	4 台
献血運搬車（出張所を含む）	20 台
医師	7 人
医療技師	4 人
看護師	34 人

社会福祉事業

特別養護老人ホーム

入所定員数	80 人
短期入所生活介護(ショートステイ)	2 床
介護職員・看護師	51 人

救護・援護事業

常備救護班	8 班
常備要員	48 人
無線基地局・移動局	86 局
救急車	1 台
災害救援車(地区分区配備含む)	67 台
エアーテント	1 基
フレーム式拡張テント	3 張
テント(地区分区配備含む)	151 張
災害物資保管庫等	73 か所
炊き出し用釜セット	73 か所

○ 支 部 の 沿 革

明治　10(1877)年5月	博愛社創立
明治 20(1887)年 11 月	日本赤十字社鹿児島地方委員会発足
25(1892)年　9月	日本赤十字社鹿児島委員部を県庁内に設置
29(1896)年　7月	日本赤十字社鹿児島支部と改称
大正 12(1923)年 12 月	鹿児島郡中郡宇村郡元開院中の海濱院買収
昭和 12(1937)年 11 月	鹿児島市樋之口町に診療所開設
14(1939)年　5月	谷山町平川2545番地に病院移転、錦江療院と改称
20(1945)年　7月	戦災により支部社屋焼失
20(1945)年　9月	鹿児島市武町日本瓦斯ビル内に支部移転
23(1948)年　5月	鹿児島市郡元町に支部仮庁舎建設、瓦斯ビルより移転
24(1949)年　8月	鹿児島市郡元町支部構内に鹿児島診療所開設
26(1951)年　1月	同構内に支部新庁舎完成
27(1952)年　6月	錦江療院錫山出張診療所開設
27(1952)年　8月	日本赤十字社法制定、日本赤十字社鹿児島県支部と改称
33(1958)年　4月	錦江療院を錦江赤十字病院と改称、鹿児島診療所を病院附属とする。
40(1965)年　1月	鹿児島市下荒田町化学血清療法研究所鹿児島血液銀行内に鹿児島県赤十字血液センターを開設
42(1967)年　1月	支部構内に血液センター新社屋完成移転
43(1968)年　4月	錦江赤十字病院を鹿児島赤十字病院と改称、附属鹿児島診療所を支部郡元診療所と改称
45(1970)年　6月	県立大島病院内に血液センター名瀬出張所を開設、県立鹿屋病院内に血液センター鹿屋出張所を開設
49(1974)年　4月	支部郡元診療所閉鎖
49(1974)年　6月	特別養護老人ホーム錦江園を平川町赤十字病院敷地内に開設(定員50名)
50(1975)年 12 月	血液成分製剤の製造開始
52(1977)年 11 月	鹿児島市鴨池新町1番5号地に鹿児島県赤十字会館完成 支部事務局、血液センター移転
53(1978)年　3月	鹿児島赤十字病院火の河原出張診療所開設
53(1978)年　5月	鹿児島赤十字病院一般25室95床、結核17室75床に使用許可
55(1980)年　8月	血液センター鹿屋出張所閉鎖
55(1980)年　9月	血液センター名瀬出張所閉鎖
55(1980)年 12 月	ベトナム難民援護施設「赤十字垂水園」を垂水市に設置
56(1981)年　4月	鹿児島赤十字病院鹿児島広域市町村圏へき地中核病院に指定
56(1981)年　4月	血液センター献血者全員に検査サービス結果通知開始
56(1981)年　9月	鹿児島赤十字病院一般24室95床、結核15室75床に変更許可
57(1982)年　2月	血液センター供給室及び製剤室増改築完了
57(1982)年　3月	鹿児島赤十字病院一般病棟改築工事落成(鉄筋コンクリート、一部木造811㎡)
57(1982)年　4月	血液センター献血手帳の供給欄削除
57(1982)年　8月	鹿児島赤十字病院一般26室95床、結核15室75床に変更許可
58(1983)年　5月	赤十字看護婦像建立(日本赤十字社看護婦同方会鹿児島県支部)
58(1983)年　7月	鹿児島赤十字病院に新たに理学診療科、放射線科の2科を増設
59(1984)年　3月	血液センター車庫及び倉庫増築完了

60(1985)年　3月	錦江園研修宿泊施設及び15床、増築工事完成(定員70名に変更)
60(1985)年　8月	鹿児島赤十字病院一般29室120床、結核10室50床に変更許可
61(1986)年　2月	血液センター天文館出張所「献血ルーム・天文館」開設
61(1986)年　4月	血液センター400mL献血及び成分献血開始
61(1986)年　9月	血液センター採血室、検査室増築工事完成
62(1987)年　4月	特別養護老人ホーム錦江園短期入所生活介護(定員1床設置)
平成 元(1989)年　2月	鹿児島赤十字病院リウマチ検診車購入
元(1989)年　3月	ベトナム難民救護施設「赤十字垂水園」を閉鎖
元(1989)年　6月	血液センター業務をシステム化
2(1990)年　7月	鹿児島赤十字病院に新たに整形外科を増設
2(1990)年11月	鹿児島赤十字病院増改築工事完成
3(1991)年　4月	血液センター血液凝固因子製剤製造用原料血漿の送付開始
4(1992)年10月	鹿児島赤十字病院骨粗しょう検診車購入
4(1992)年10月	鹿児島県支部創設百周年記念大会開催
5(1993)年　3月	『日赤鹿児島百年史』刊行
6(1994)年　4月	鹿児島県支部事務局組織改正
7(1995)年　1月	阪神・淡路大震災へ救護班2個班出動
8(1996)年　5月	鹿児島赤十字病院エイズ治療協力病院指定
8(1996)年10月	鹿児島赤十字病院に新たにリウマチ科増設、理学診療科をリハビリテーション科に変更
9(1997)年　3月	鹿児島赤十字病院、災害拠点病院(地域災害医療センター)指定
10(1998)年　2月	血液センター増改築工事(放射線照射室　他)
10(1998)年　6月	鹿児島赤十字病院検診棟完成
11(1999)年　5月	鹿児島赤十字病院に鹿児島県へき地遠隔医療システム導入
11(1999)年　7月	鹿児島県赤十字会館増改築工事着工
12(2000)年　3月	鹿児島赤十字病院、居宅介護支援事業所指定
12(2000)年　4月	特別養護老人ホーム錦江園介護老人福祉施設および居宅サービス(短期入所生活介護)事業所指定(事業所番号4670101114)
12(2000)年　8月	鹿児島県赤十字会館増改築工事竣工
14(2002)年　6月	特別養護老人ホーム錦江園短期入所生活介護(定員1床増床)
14(2002)年　7月	赤十字病院「へき地医療拠点病院」指定(へき地中核病院の再編成)
15(2003)年　1月	鹿児島赤十字病院増改築工事(リハビリ棟　他)
15(2003)年　7月	鹿児島赤十字病院に新たに脳神経外科を増設、休止中の外科を廃止
15(2003)年11月	鹿児島赤十字病院「保健文化賞」受賞(リウマチ膠原病・骨粗しょう症検診及び離島へき地診療による地域医療の貢献)
16(2004)年　3月	血液センターに新鮮凍結血漿の貯留保管のため供給課にプレハブフリーザー室を増設
16(2004)年　4月	鹿児島赤十字病院に新たに麻酔科を増設
16(2004)年　4月	鹿児島赤十字病院、結核病棟(休床)
16(2004)年　7月	鹿児島赤十字病院　「地域医療連携室」設置
17(2005)年　3月	鹿児島赤十字病院　「救急病院」認定
17(2005)年　4月	鹿児島赤十字病院　「特定診療科(眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科)巡回診療」県から移管
18(2006)年　3月	血液センター改修工事(1階採血施設に献血者問診室を設置)

18(2006)年　7月　血液センター　「献血ルーム天文館」全面改修リニューアルオープン
18(2006)年10月　血液センター　「献血者健康被害救済制度」開始
18(2006)年10月　血液センター　献血手帳を磁気型「献血カード」に変更
18(2006)年11月　鹿児島赤十字病院　MRI室増築　稼動開始
19(2007)年　1月　血液センター　全ての血液製剤について保存前白血球除去開始
(一部製剤は先行実施)
19(2007)年　2月　血液センター　採血時初流血液除去を開始
19(2007)年　3月　鹿児島赤十字病院　医療安全推進室を設置
19(2007)年　4月　鹿児島赤十字病院　言語聴覚療法を開始
19(2007)年11月　鹿児島赤十字病院　放射線撮影室増築工事、中央病棟増築工事完成
一般撮影装置増設、DEXA装置更新
19(2007)年11月　血液センター　九州ブロックにおける検査・製剤集約施設として「日本赤十字社九州血液センター」竣工
20(2008)年　1月　血液センター　検査業務を九州血液センターに集約
20(2008)年　3月　鹿児島赤十字病院　一般病棟入院基本料「7対1入院基本料」承認
20(2008)年　3月　血液センター　医薬品製造業を廃止し、製剤業務を九州血液センターに集約(製剤業務の集約4/1付)
20(2008)年　4月　血液センター　かもいけの血液センターを改修に併せ「献血プラザかもいけクロス」と名称変更し、リニューアルオープン
特別養護老人ホーム錦江園　介護老人福祉施設および居宅サービス(短期入所生活介護)事業所指定更新
20(2008)年　6月　鹿児島赤十字病院　病院機能評価認定病院(審査体制区分2:ver.5)認定
21(2009)年　3月　血液センター　生化学検査サービス項目のAST(GOT)検査に変え、GA(グリコアルブミン:糖尿病関連)検査導入
21(2009)年　3月　鹿児島赤十字病院　国道拡幅工事に伴う改修工事(リハビリ棟・重油タンク)
21(2009)年　4月　鹿児島赤十字病院　鹿児島県から災害派遣医療チーム(DMAT)指定病院として指定
血液センター　献血プラザかもいけクロス採血室の漏電による火災のため一時閉所
21(2009)年　7月　血液センター　献血プラザかもいけクロスリニューアルオープン
21(2009)年10月　鹿児島赤十字病院　消防・防災ヘリコプター医師搭乗システム協力病院
22(2010)年　3月　鹿児島赤十字病院　鹿児島県から看護学生研修実習生控室(建物)の無償譲渡
鹿児島赤十字病院　錫山・火の河原出張診療所廃止
22(2010)年　7月　鹿児島赤十字病院　DPC対象病院として稼働開始
22(2010)年11月　血液センター　「ホリスティックヘルスプラザかごしま」オープン
22(2010)年12月　鹿児島赤十字病院　電子カルテ・オーダリングシステムの導入・稼働開始
23(2011)年3月　東日本大震災(発災から同年8月までの間)、救護班5個班のほか、こころのケア要員、病院・施設支援要員、ボランティア等を派遣
23(2011)年8月　血液センター　鹿屋地区血液備蓄所(鹿屋富田薬品)及び曽於地区血液備蓄所(曽於郡医師会立病院)閉鎖
23(2011)年9月　血液センター　鹿屋出張所開設
23(2011)年11月　血液センター　川内地区血液備蓄所(アステム川内支店)閉鎖

23(2011)年12月	血液センター　川内出張所開設
24(2012)年3月	鹿児島赤十字病院　平成16年4月より休棟中の結核病床廃止(一般病床120床となる)
24(2012)年4月	血液事業の広域運営体制開始 広域事業運営体制による血液センター組織改正
24(2012)年8月	日本赤十字社鹿児島県支部120周年記念絵画・作文コンクール実施
24(2012)年12月	日本赤十字社鹿児島県支部120周年記念改築工事(災害対策本部機能等改修工事)
25(2013)年1月	「～献血ありがとう～いのちをつなぐ友の会」発足
〃	立体駐車場(3階4層:公用車含142台収容)完成
26(2014)年1月	鹿児島城山ライオンズクラブから献血運搬車の寄贈を受ける
〃	特別養護老人ホーム錦江園改築工事竣工(鉄筋コンクリート5階建て全ユニット型)
26(2014)年2月	宮崎県串間市への血液供給を開始(県境を越えた供給)
26(2014)年3月	鹿児島赤十字病院新東棟竣工
26(2014)年5月	血液事業情報システム供給部門導入
〃	血液事業情報システム本稼働
26(2014)年6月	鹿児島・串木野・奄美の各海上保安部と「海上災害等における相互協力に関する協定」を５０年振りに再締結
26(2014)年11月	鹿児島赤十字病院本館改修工事竣工
27(2015)年1月	鹿児島赤十字病院増改築工事落成祝賀会並びに設立90周年記念祝賀会挙行
27(2015)年2月	鹿児島県赤十字血液センター創立５０周年記念式典挙行
27(2015)年3月	一般社団法人 日本血液製剤機構(JBPO)と日本赤十字社間の血漿分画製剤の販売提携終了
27(2015)年5月	屋久島町口永良部島新岳噴火災害へ救護班1個班、こころのケア要員等を派遣
27(2015)年8月	鹿児島赤十字病院永井慎昌医師「第67回保健文化賞」受賞
27(2015)年8月	米盛庄司代議員より、支部事務局へ机、イス寄贈
27(2015)年12月	医療機関での赤血球製剤抗原検索システム開始
28(2016)年2月	「献血ルーム天文館」開設30周年記念キャンペーン開催
28(2016)年4月	血液事業本部　生化学検査のALT基準値変更と抗原陰性血の確認検査廃止
〃	熊本地震災害へ(発災から同年6月までの間)、医療救護班4個班及び災害対策本部支援要員等を派遣
28(2016)年7月	鹿児島県赤十字血液センターの固定施設の定休日を変更 (献血プラザかもいけクロス:木曜定休、献血ルーム天文館:金曜定休)
28(2016)年9月	血液事業本部　照射洗浄血小板－LR「日赤」販売開始
29(2017)年3月	鹿児島城西ロータリークラブ及び鹿児島サザンウインドロータリークラブより、血液センターへ献血運搬車の寄贈
〃	鹿児島県赤十字血液センターの加世田地区血液備蓄所(富田薬品南薩営業所)、大口地区血液備蓄所(山口長生堂薬局)及び出水地区血液備蓄所(出水総合医療センター)閉鎖
29(2017)年4月	特別養護老人ホーム錦江園10床増床(定員80名に変更)
29(2017)年7月	日本赤十字社鹿児島県支部125周年記念改築工事(救援物資保管倉庫改修)
29(2017)年9月	日本赤十字社創立140周年・日本赤十字社鹿児島県支部創立125周年記念表彰式及び講演会を開催
〃	日本赤十字社鹿児島県支部125周年記念赤十字ふれ愛親子防災教室を開催
〃	国分地区血液備蓄所(アトル国分支店)閉鎖
29(2017)年12月	指宿地区血液備蓄所(国立病院機構指宿医療センター)閉鎖

30(2018) 年 3 月	阿久根地区血液備蓄所(出水郡医師会立阿久根市民病院)、大島地区血液備蓄所(九州東邦大島営業所)閉鎖
31(2019) 年 3 月	種子島地区血液備蓄所(種子島医療センター)閉鎖
31(2019) 年 4 月	鹿児島城山ライオンズクラブ及び鹿児島明倫ライオンズクラブから献血運搬車の寄贈を受ける
令和 元 (2019) 年 8 月	令和元年8月豪雨災害により佐賀県へ救護班1個班を派遣

赤 十 字 標 語 一 覧

1973年(昭48)	あなたとあなたの世界に赤十字
1974年(昭49)	いのちを守る赤十字！(救急法，水上安全法，家庭看護法の普及)
1975年(昭50)	赤十字:危急のときのいのち綱
1976年(昭51)	行動する赤十字
1977年(昭52)	人の和を世界に広げる赤十字
1978年(昭53)	参加しよう赤十字
1979年(昭54)	愛に手で世界を結ぶ赤十字
1980年(昭55)	赤十字:みんなのためにどこにでも
1981年(昭56)	あなたとともに赤十字
1982年(昭57)	あなたの身近に赤十字
1983年(昭58)	とっさの手当がいのちを守る！覚えよう救急法
1984年(昭59)	人道を通じて平和へ
1985年(昭60)	あなたの若さを－赤十字
1986年(昭61)	いのちを救う愛の献血－赤十字
1987年(昭62)	幼い生命に愛の手を－赤十字
1988年(昭63)	伝統を明日への力に－赤十字
1989年(平元)	愛の手を世界に広げる赤十字
1990年(平2)	守ろう！人のいのちと尊さを
1991年(平3)	救おう！災禍にあえぐ人々を
1992年(平4)	災害に備えて守る尊い生命－赤十字
1993年(平5) 〜	すべての人々に人間の尊厳を
2000年(平12)	全ての人々に人間の尊厳を
2001年(平13) 〜	人道は限りない力
2004年(平16) 〜	守ろう人間の尊さを
2008年(平20) 〜	人間を救うのは，人間だ。Together for humanity
2012年(平24) 〜	人間を救うのは，人間だ。Our world. Your move.